

**EPSON**  
EXCEED YOUR VISION

# プロジェクター活用ガイド

***Officio***  
オフィリオ プロジェクター

**EB-826W**

**EB-825**

**EB-85**

## はじめに

プロジェクターを活用する.....	6
ネットワークを利用した画面転送(EMP NS Connection).....	6
遠隔からプロジェクターの監視・設定・制御.....	6
USB機器に保存したJPEG画像をそのまま投写(スライドショー).....	6
USBケーブルでコンピューターと接続してコンピューターの画面を投写(USBディスプレイ).....	6
オプション品のクイックワイヤレス用USBキーでコンピューターの画面を投写.....	7
ソフトウェアのインストール.....	8
収録されているソフトウェア.....	8
インストールの方法.....	8

## EMP NS Connectionで接続する

EMP NS Connectionの概要.....	11
2つの接続モードと主な機能.....	11
マニュアルモード.....	11
かんたんモード(オプションの無線LANユニット装着時のみ).....	11
主な機能.....	11
マニュアルモード接続の流れ.....	12
接続の準備.....	13
コンピューター側の準備.....	13
Windowsの場合.....	13
Macintoshの場合.....	13
ネットワーク上のプロジェクターに接続して投写する.....	14
プロジェクター側の操作.....	14
コンピューター側の操作.....	14
接続画面の使い方.....	15
ツールバーの使い方.....	17

## EMP NS Connectionの便利な機能

PowerPointのスライドショーだけを投写する(プレゼンテーションモード).....	21
マルチスクリーンディスプレイ機能を使う.....	22
仮想ディスプレイの配置例.....	23
マルチスクリーンディスプレイ機能を使用するまでの流れ.....	23
仮想ディスプレイの設定.....	24
仮想ディスプレイドライバを有効にする(Windowsのみ).....	24
仮想ディスプレイの配置.....	24
投写する映像を割り当てる.....	28
割り当てた映像を投写する.....	29

## サブネットが異なるプロジェクターと接続したいとき

サブネットの異なるプロジェクターと接続するには.....	32
IPアドレスやプロジェクター名を指定して検索(マニュアルモードのみ).....	33
プロファイルを使った検索.....	34
プロファイルを作成する.....	34
プロファイルを指定して検索.....	35
プロファイルを管理する.....	36

## EMP NS Connectionの動作を設定する

オプション設定の使い方.....	39
一般設定タブ.....	39
パフォーマンス調整タブ.....	40

## コンピューターを使ってプロジェクターの設定・監視・制御をする

Webブラウザを使って設定を変更する(Web制御).....	43
Web制御を表示する.....	43
プロジェクターのIPアドレスを入力する.....	43
プロジェクターの設定.....	43
Webブラウザで設定できない環境設定メニューの項目.....	43
Webブラウザでのみ設定できる項目.....	44
メール通知機能で異常を通知する.....	45
SNMPを使って管理する.....	46

## スライドショーを使ったプレゼンテーション

スライドショーで投写できるファイルと保存の方法.....	48
スライドショーで投写できるファイルの仕様.....	48
スライドショーの利用例.....	48
USBストレージなどに保存した画像を投写.....	48
スライドショーの基本操作.....	49
スライドショーの起動と終了.....	49
スライドショーの起動方法.....	49
スライドショーの終了方法.....	49
スライドショーの基本操作.....	49
画像を回転する.....	50
画像ファイルの投写.....	52
画像を投写する.....	52
フォルダー内のすべての画像ファイルを順番に投写する(スライドショー).....	53
画像ファイルの表示条件を設定する.....	54

## 付 録

接続時の制限事項.....	56
対応解像度.....	56
表示色.....	56
接続台数.....	56
その他.....	56
Windows Vista使用時.....	56
Windows フォト ギャラリー投写時の制限.....	57
Windows Aeroの制限.....	57
困ったときに.....	58
ネットワーク機能に関するトラブル.....	59
EMP NS Connectionと接続できない.....	59
EMP NS Connectionで接続して、映像が投写されたままになって他のコンピューターから接続できない.....	59
EMP NS Connectionを起動してもプロジェクターが見つからない.....	59
マニュアルモードまたは有線LANで接続できない.....	60
マルチスクリーンディスプレイ機能実行時に、任意のディスプレイへスライドショーの表示ができない.....	61
マルチスクリーンディスプレイ機能実行時に、コンピューターの画面上からアプリケーションが表示されなくなってしまう.....	61
マウスカーソルがコンピューターの画面上に表示されない.....	61
EMP NS Connectionで接続して映像が表示されない、表示が遅い.....	62
EMP NS Connectionで接続して使用しているときにPowerPointのスライドショーが動作しない.....	62
EMP NS Connectionで接続してOfficeアプリケーション使用時に画面が更新されない.....	62
EMP NS Connection実行時のエラーメッセージ.....	62
EMP NS Connectionでコンピューターとの接続を切断した後、ネットワークの設定が回復しない.....	64
監視・制御に関するトラブル.....	64
プロジェクターに異常が起きてもメールが送られてこない.....	64
用語解説.....	66
一般のご注意.....	67
商標について.....	67



索引..... 69



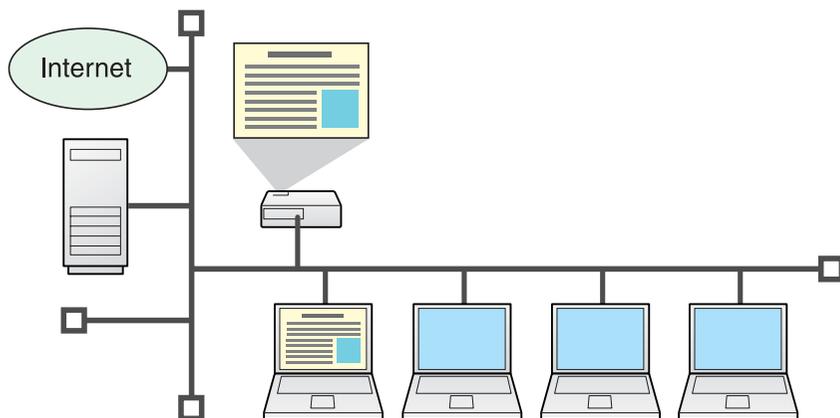
# はじめに

ここでは、プロジェクターをもっと便利に活用するための機能について説明しています。

本機では、もっと便利にプロジェクターを活用する機能が備わっています。コンピューターケーブルでの接続以外に、USBケーブルやUSBメモリー、LAN接続など多彩なインターフェイスを選べますので、使用環境によって自由に映像入力ソースを決められます。

## ネットワークを利用した画面転送(EMP NS Connection)

プロジェクターをネットワークに接続すると、効率的に会議やプレゼンテーションが行えます。



### ● 円滑な進行

プロジェクターをネットワークに接続すれば、ネットワーク上のコンピューターから共用できます。会議やプレゼンテーション時に各自のコンピューターから資料を投写する際も映像ケーブルをつなぎ替えることなく円滑に進行できます。プロジェクターとコンピューターの距離が離れていても大丈夫です。

### ● 多彩な画面転送機能

- 分配機能  [p.11](#)
- 切り替え機能  [p.11](#)
- マルチスクリーンディスプレイ  [p.22](#)
- プレゼンテーションモード  [p.21](#)

## 遠隔からプロジェクターの監視・設定・制御

各会議室のプロジェクターを一括して管理するのに便利な以下の機能を用意しています。

- 異常時にメールでお知らせ  [p.45](#)
- ネットワーク上の SNMP Manager からの監視、異常状態検出  [p.46](#)
- コンピューターに標準搭載の Web ブラウザを使って、プロジェクターを設定・制御  [p.43](#)

## USB機器に保存したJPEG画像をそのまま投写(スライドショー)

USBマスタストレージに対応したデジタルカメラやハードディスク、USBメモリーを本機に接続して、USB機器に保存されているJPEG画像をそのままスライドショー投写できます。  [p.47](#)

## USBケーブルでコンピューターと接続してコンピューターの画面を投写(USBディスプレイ)

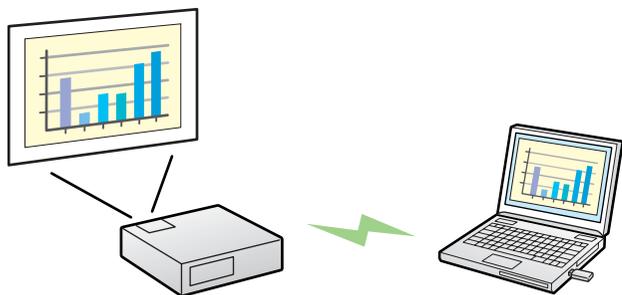
同梱品のUSBケーブルとWindows搭載のコンピューターを接続するだけで、コンピューター画面を投写できます。

☛ 『セットアップガイド』

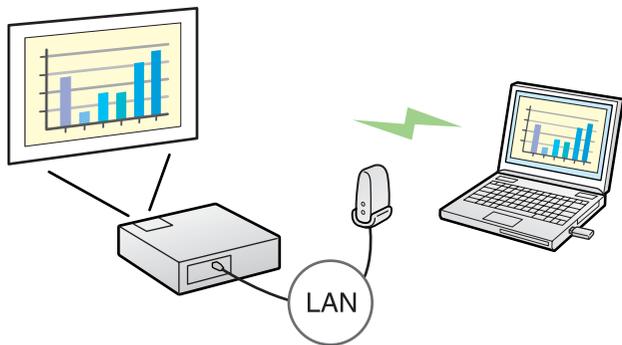
## オプション品のクイックワイヤレス用USBキーでコンピューターの画面を投写

オプション品のクイックワイヤレス用USBキーを使って簡単に、コンピューターとプロジェクターを接続して投写できます。  
クイックワイヤレス用USBキーがあれば、EMP NS Connectionをインストールしなくても、ネットワーク上のプロジェクターに接続できます。  
例えば次のような環境で接続が可能です。

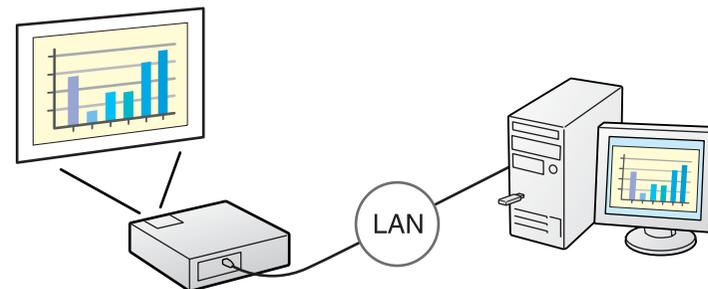
- オプション品の無線LANユニットを使ってかんたんモードで接続している状態。



- アクセスポイントに接続して、ネットワークに参加している状態。



- 有線LAN接続でネットワークに参加している状態。



☛ 『取扱説明書』「オプション・消耗品一覧」

本機はWindows Vistaに標準搭載の「ネットワークプロジェクタ」機能に対応していません。

ネットワークの機能を使うためには、同梱品の『EPSON Projector Software for Meeting & Monitoring』CD-ROM に収録されているソフトウェアをお使いのコンピューターにインストールします。

## 収録されているソフトウェア

CD-ROMには以下のソフトウェアが収録されています。

- **EMP NS Connection**  
ネットワーク接続したコンピューターの画面映像をプロジェクターに送信するソフトウェアです。
- **EMP Monitor**  
ネットワーク接続しているエプソンプロジェクターの状態をコンピューター画面に一覧表示して監視、制御するソフトウェアです。EMP Monitorを使うと複数のプロジェクターを一括して管理できます。

## インストールの方法

インストールを開始する前に次の点にご留意ください。

- **Windows 2000/XP/Vista**をお使いの方は、管理者権限のユーザーでインストールしてください。
- 起動中のアプリケーションはすべて終了してからインストールを行ってください。



EMP NS Connection Ver.2.51以前のバージョンでは、本機と正しく接続できません。必ず同梱品の『EPSON Projector Software for Meeting & Monitoring』CD-ROMに収録されているEMP NS Connection Ver.2.51をお使いになるコンピューターにインストールしてください。

### 操作

#### Windowsの場合

- ① コンピューターの電源を入れます。
- ② コンピューターにCD-ROMをセットします。  
自動的にセットアッププログラムが起動します。
- ③ 「おすすめインストール」をクリックします。  
ソフトウェアを選択してインストールしたいときは、**カスタムインストール**を選択します。ソフトウェアの表示言語を変更するときは**言語選択**をクリックします。
- ④ インストールするアプリケーションを確認して「インストール」をクリックします。
- ⑤ 使用許諾画面が表示されたら「はい」をクリックします。
- ⑥ **EPSON Virtual Display**の追加と削除の画面が表示されたら「OK」をクリックします。  
マルチスクリーンディスプレイ機能を使うときは、EPSON Virtual Displayの設定が必要ですが、ここで設定しなくても後から設定ができます。  [p.23](#)
- ⑦ 「完了」をクリックするとインストールが終了します。  
EMP Monitorをインストールするように選択していると引き続きインストールが始まります。

#### Macintoshの場合

- ① コンピューターの電源を入れます。
- ② コンピューターにCD-ROMをセットします。

- ③ EPSONウィンドウで「Installer for Mac OS X」アイコンをダブルクリックします。

インストールが開始します。

- ④ 「完了」をクリックするとインストールが終了します。



- 自動でインストールを開始しないとき(Windowsのみ)  
スタート - ファイル名を指定して実行でファイル名を指定して実行ダイアログボックスを開き、CD-ROMドライブ名：¥ EPsetup.exeを指定してOKをクリックしてください。

- アンインストールしたいとき

#### **Windowsの場合**

スタート - 設定 - コントロールパネルでアプリケーションの追加と削除またはプログラムの追加と削除でEMP NS Connectionを削除します。

#### **Macintoshの場合**

アプリケーション - EMP NS Connectionのフォルダーを削除します。



## EMP NS Connectionで接続する

コンピューターとプロジェクターをマニュアルモードでネットワーク接続して、コンピューターの画面映像をプロジェクターで投写する手順を説明しています。

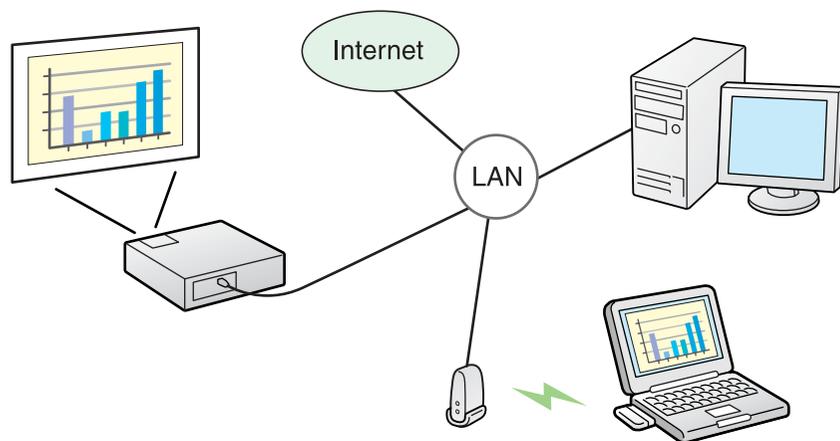
EMP NS Connectionでコンピューターとプロジェクターをネットワーク接続するには、以下の2通りの方法があります。

## 2つの接続モードと主な機能

### マニュアルモード

マニュアルモードはインフラストラクチャ接続で、すでに構築されているネットワークシステムにネットワークケーブルで接続する方法です。有線LANでネットワークに接続するときは、市販のLANケーブルでプロジェクターをネットワークハブなどに接続します。

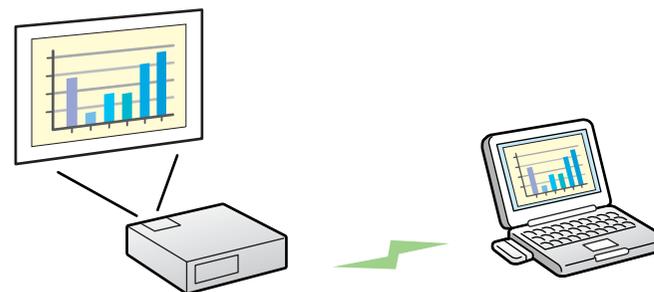
本機にオプションの無線LANユニットを装着すれば、無線LANアクセスポイントに接続してネットワークに参加することもできます。



### かんたんモード(オプションの無線LANユニット装着時のみ)

本機にオプションの無線LANユニットを装着しているときに限り、かんたんモードは実行できます。

かんたんモードはプロジェクターが持つSSIDを一時的にコンピューターに割り当ててアドホック接続し、切断後にコンピューターのネットワーク設定を復元します。 [p.13](#)

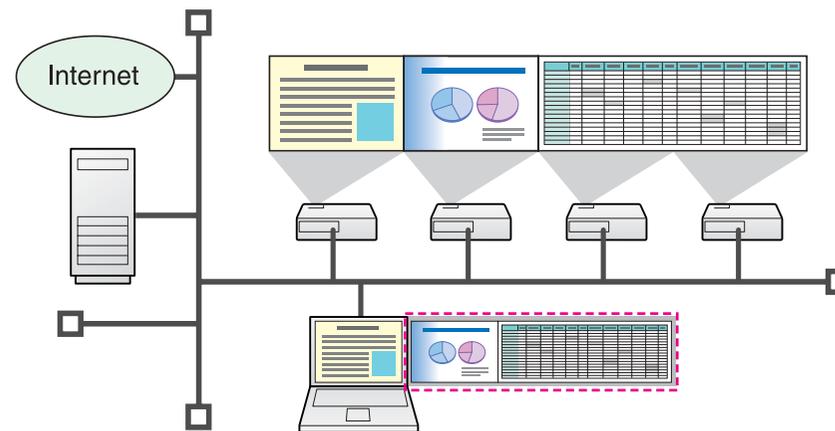


- ネットワークの設定を行わずに簡単にコンピューターと接続し、そのコンピューターの映像を投写できます。
- 接続ケーブルが不要なのでスマートに、またプロジェクターとコンピューターが離れた位置にあっても接続できます。

### 主な機能

以下の便利な機能で会議やプレゼンテーションが行えます。

- マルチスクリーンディスプレイ [p.22](#)  
1台のコンピューターから4台までのプロジェクターに、それぞれ異なる映像を投写したり、横長の帳票画面などを一覽で投写したりできます。



- プレゼンテーションモード  p.21

コンピューターで PowerPointのスライドショーを実行しているときだけ投写する機能です。プレゼンテーションまでの準備操作中など、スライドショーを実行していないときは黒画面が投写されるのでスマートなプレゼンテーションができます。

- 分配機能

1台のコンピューターの画面を、最大4台の同一のネットワークに接続されたプロジェクターに同時に投写できます。

- 切り替え機能

会議で使うすべてのコンピューターにEMP NS Connectionをインストールしておけば、順番に発表するときも接続ケーブルをつなぎ替えることなく次の発表者のコンピューターの画面に切り替えられます。



- 5. コンピューターでEMP NS Connectionを起動し本機と接続する  p.14

※ 2と3は、普段コンピューターをネットワークに接続して使っているときは、コンピューターのネットワーク設定は不要です。

## マニュアルモード接続の流れ

EMP NS Connectionのマニュアルモードで接続して、投写するまでの作業は次のとおりです。

次の1から4の部分は、接続までの準備作業で初回のみ実行が必要です。

1. 接続するコンピューターにEMP NS Connectionをインストールする  p.8



2. コンピューターのネットワーク設定を行いネットワークに接続できる状態にする  p.13



3. ポート設定で有線LANのアダプタを有効にする  コンピューターの「取扱説明書」



4. 本機のネットワーク設定を行いネットワークに接続できる状態にする  『取扱説明書』「ネットワークメニュー」

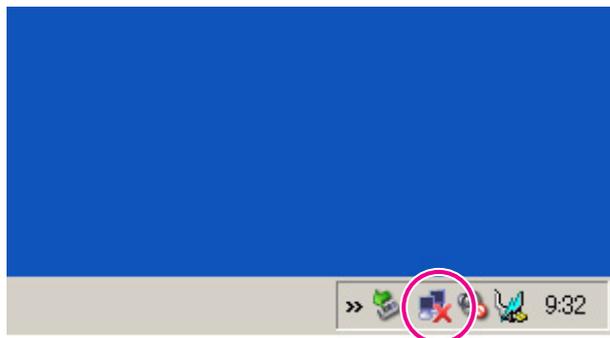
プロジェクターとコンピューターで行うそれぞれの接続までの準備作業は以下のとおりです。

## コンピューター側の準備

### Windowsの場合

コンピューターのLANアダプタに添付のユーティリティソフトを使ってネットワーク設定を行います。ユーティリティソフトの使用方法は、お使いのLANアダプタの『取扱説明書』をご覧ください。

たとえば以下の図のように ネットワークアイコンにxがついていると、本機との接続ができません。



### Macintoshの場合

ネットワークポートと通信状態を設定します。詳細設定についてはコンピューター、またはAirMacカードの各『取扱説明書』をご覧ください。

## プロジェクター側の操作

まず、プロジェクターを接続待ちの状態にします。  
事前に、プロジェクターのネットワーク設定が終了し、市販のネットワークケーブルでネットワークハブ等に接続されていることを確認してください。

### 操作

- 1 リモコンまたは本体パネルの[⏻]ボタンを押し、本機の電源を入れます。
- 2 リモコンの[LAN]ボタンを押します。  
LAN待機画面が表示されます。



## コンピューター側の操作

以降の説明では、断りのない限りWindowsの画面を載せています。  
Macintoshでも同様の画面が表示されます。

### 操作

- 1 EMP NS Connectionを起動します。  
**Windowsの場合**  
スタート - プログラム(またはすべてのプログラム) - EPSON Projector - EMP NS Connectionの順に選択します。  
**Macintoshの場合**  
EMP NS Connectionをインストールしたハードディスクボリュームからアプリケーションフォルダーをダブルクリックし、EMP NS Connectionアイコンをダブルクリックします。
- 2 「マニュアルモード」を選択して「OK」をクリックします。  
プロジェクターが検索され、検索結果が表示されます。常にマニュアルモードで接続するときは、**選択した接続モードを次回以降のデフォルト設定とする**にチェックを付けます。
- 3 接続するプロジェクターにチェックを付け、「接続する」をクリックします。  
万一、接続したいプロジェクターが検索されないときには、**自動検索**をクリックします。検索には30秒程度かかります。  
接続画面の詳細は接続画面の使い方をご覧ください。  
☞ p.15

④ プロジェクター側でプロジェクターキーワードを「オン」にしているときは、キーワードを入力する画面が表示されます。LAN待機画面に表示されているキーワードを入力し、「OK」をクリックします。

接続が完了すると、コンピューター画面の映像が投写されます。コンピューターの画面には次のようなEMP NS Connectionのツールバーが表示されます。このツールバーを使って、プロジェクターの操作や設定をしたり、ネットワーク接続を切断したりできます。ツールバーの使い方は次を参照してください。



プレゼンターの交代など、引き続き別のコンピューターから接続する場合は、接続したいコンピューターでEMP NS Connectionを起動してください。接続中のコンピューターと接続が自動的に切断され、後から接続しようとしたコンピューターと接続します。

## 接続画面の使い方

EMP NS Connectionを起動すると以下の画面が表示されます。各ボタンや項目の働きは以下のとおりです。

マニュアルモードで起動したとき



## かんたんモードで起動したとき



使用中(割り込み禁止) 選択できません。他のコンピューターで割り込み接続を禁止するを設定して接続中です。

他アプリ使用中 プロジェクターが環境設定メニューを表示中です。環境設定メニューを終了してから検索し直すと選択できます。

検索中 指定検索やプロファイルの検索中に表示されます。

見つからない 指定検索やプロファイルを実行した結果、見つからなかったときに表示します。かんたんモード時は、SSIDが同じものに限り複数のプロジェクターを選択できます。



- ① **自動検索**  

 マニュアルモード時は、コンピューターが接続しているネットワークシステムの中で接続可能なプロジェクターを検索します。  
 かんたんモード時は、SSIDによりプロジェクターを検索します。
- ② **指定検索**  

 マニュアルモード時は、プロジェクターのIPアドレス、またはプロジェクター名を指定して検索します。  
 かんたんモード時は、SSIDの一覧から選んでプロジェクターを検索します。
- ③ **ステータス**  
 次の6種類のアイコンで、検索されたプロジェクターの状態をお知らせします。

	待機中	接続のために選択できます。
	使用中	接続のために選択できます。接続するをクリックすると、現在接続中のコンピューターを切断してから接続します。

- ④ **プロジェクター名**  
 プロジェクターの名前が表示されます。
- ⑤ **割り込み接続を禁止する**  
 選択したプロジェクターと接続中に他のコンピューターからの接続を禁止するときにチェックを付けます。
- ⑥ **マルチディスプレイを使用する**  
 マルチスクリーンディスプレイ機能を使用するとき、チェックマークを付けます。チェックマークを付けると画面の下側にディスプレイ配置とディスプレイのプロパティが表示されます。  p.22
- ⑦ **トラブルシュート**  
 困ったときや、接続できないときにこのボタンを押すと、EMP NS Connectionトラブルシューティング画面が開きます。
- ⑧ **接続する**  
 検索結果の一覧で選択したプロジェクターと接続します。プロジェクターと接続できるとツールバーが表示されます。
- ⑨ **オプション設定**  
 EMP NS Connection起動時の処理方法などの環境を設定します。オプション設定について  p.39
- ⑩ **プロファイルに保存**  
 ネットワーク上のプロジェクターを検索した結果をプロファイルとして保存します。  p.34

- ⑪ リストのクリア  
検索結果の一覧をすべて消去します。
- ⑫ IPアドレス(マニュアルモードのみ)  
プロジェクターのIPアドレスが表示されます。
- ⑬ ディスプレー  
(マルチディスプレイを使用するにチェックしたとき)ディスプレイ番号を選択します。 p.29
- ⑭ プロファイル  
プロファイルに保存を実行して保存したプロファイルを使ってネットワーク上のプロジェクターを検索します。 p.34
- ⑮ SSID(かんたんモードのみ)  
プロジェクターのSSIDが表示されます。
- ⑯ 信号強度  
かんたんモードで接続したときに表示されます。信号強度が強いほど、点灯しているインジケータの数が多くなります。
- ⑰ リストの更新(かんたんモードのみ)  
ステータスや信号強度を最新の状態に更新します。

分配機能やマルチスクリーンディスプレイで複数台のプロジェクターと接続して投写中に、ツールバーから操作するプロジェクターを限定するときにクリックします。アイコン下の表示は、操作対象となっているプロジェクターを示しています。ALLは接続しているプロジェクターすべてが操作対象となっていることを示しています。1,3など数字が表示されているときは、接続しているプロジェクターのうちNo.1と3が操作対象となっていることを示しています。

をクリックすると以下の画面が表示されます。

操作対象プロジェクターの選択

No.	プロジェクター名	ディスプレイ
<input checked="" type="checkbox"/> 1	EMP02FAC1	1
<input checked="" type="checkbox"/> 2	EMP02FAC2	1
<input checked="" type="checkbox"/> 3	EMP02FAC3	1

プロジェクターの状態を示しています。

割り当てられたプロジェクターNo. を表示しています。このNo. がツールバーの操作対象プロジェクターNo. としてアイコンに表示されます。

操作対象としたいプロジェクターを選択します。

## ツールバーの使い方

EMP NS Connectionを起動してプロジェクターと接続すると、コンピューターの画面にツールバーが表示されます。このツールバーを使ってプロジェクターの操作や設定ができます。



操作対象プロジェクターの選択



### 停止

プロジェクターと接続したまま投写を停止します。停止中は、黒画面が投写されます。音声は停止しません。音声を停止したいとき、プロジェクターに登録してあるユーザーロゴを停止中の画面として表示させたいときはAV/ミュートをお使いください。



### 表示

停止や一時停止を解除します。



### 一時停止

プロジェクターと接続したまま、投写中の映像の動きを一時的に停止します。音声は一時停止しません。



## プレゼンテーションモード

クリックするたびにプレゼンテーションモードが有効/無効になります。☞ p.21



## プロジェクター制御

ネットワークに接続したまま、プロジェクター機能A/Vミュート、PCソース切替、Videoソース切替がリモコンや本体の操作パネルからの操作と同様に行えます。



をクリックすると、以下のツールバーが表示されます。



Videoソース切替

A/Vミュート

PCソース切替



### A/Vミュート

リモコンの[A/Vミュート]ボタンと同機能です。

☞ 『取扱説明書』「リモコン」



### PCソース切替

クリックするたびに入力ソースが、コンピューター入力端子 - LANの順で切り替わります。



### Videoソース切替

クリックするたびに入力ソースが、S-ビデオ入力端子 - ビデオ入力端子の順で切り替わります。S-ビデオ入力端子はケーブルが接続されていないときは切り替わりません。

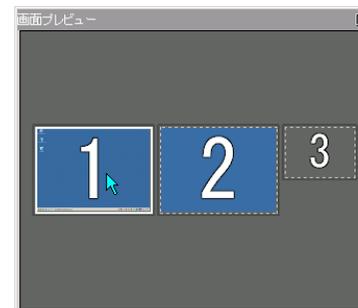


## 画面プレビュー

マルチスクリーンディスプレイのプレビュー画面を表示します。



をクリックすると、設定されているディスプレイの配置がプレビュー表示されます。各ディスプレイをクリックすると、画面プレビューウィンドウ全体に拡大表示されます。



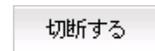
## オプション設定

コンピューターの映像を送信するときの送信パフォーマンスを調整できます。☞ p.39



## 動画再生モード

本機では動作しません。「動画再生を行えるプロジェクターに接続されていません。」とメッセージが出ます。



## 切断する

プロジェクターとの接続を終了します。



## 信号強度

かんたんモードで接続したときに表示されます。信号強度が強いほど、点灯しているインジケーターの数が多くなります。



## ツールバー表示切り替え

ツールバーの表示を以下のように切り替えられます。ツールバーの表示状態は、次に切り替えるまで保存されます。

## Full



## Normal



## Simple





## EMP NS Connectionの便利な機能

1台のコンピューターから複数のプロジェクターへ多様な画面を投写するマルチスクリーンディスプレイ機能など会議やプレゼンテーションを多彩にする便利な機能の使い方を説明しています。

プレゼンテーションモードにすると、コンピューター上でPowerPointのスライドショーを実行したときだけ、その映像が投写されます。スライドショーを実行していないときは黒画面が投写されます。スライドショー以外を見せたくないときに便利です。

MacintoshではPowerPointのほかKeynoteもプレゼンテーションモードに対応しています。

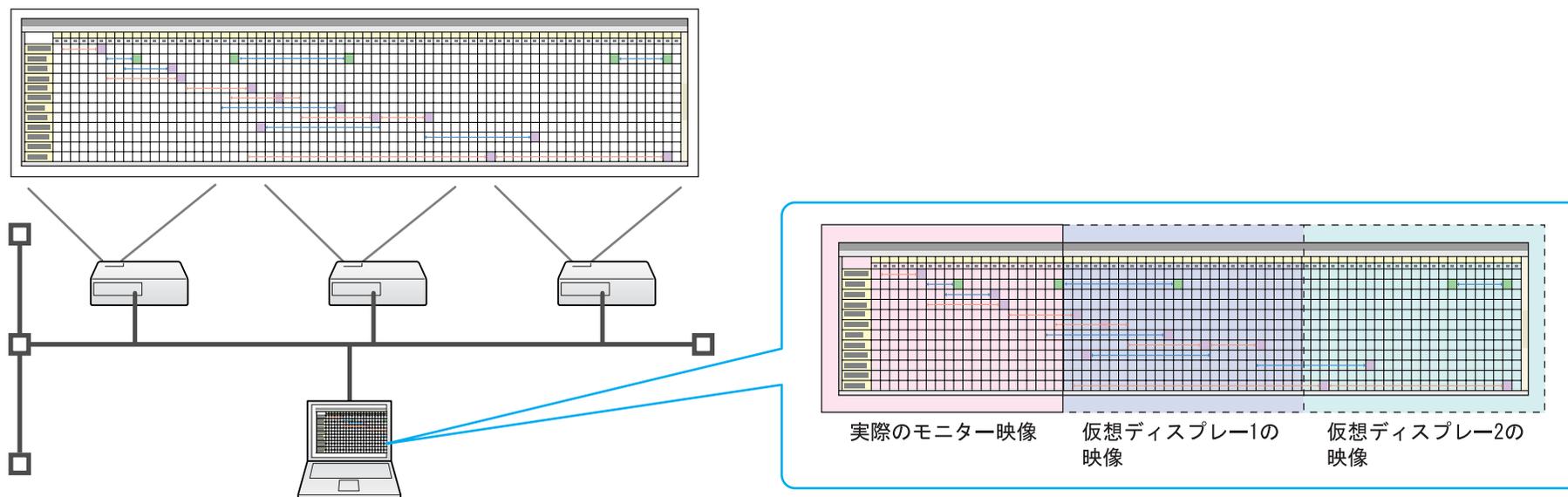
## 操作

- 1 必要に応じ操作対象のプロジェクターを選択し直します。  
☞ p.17
- 2 ツールバーの  ボタンをクリックします。  
プレゼンテーションモードになります。
- 3 プレゼンテーションモード中に、もう一度  ボタンをクリックするとプレゼンテーションモードが解除されます。

マルチスクリーンディスプレイは、1台のコンピューターに複数台のプロジェクターを接続して多様な画面を投写できます。

Windowsの場合は、コンピューターに複数の仮想ディスプレイ▶を設定し、それぞれの映像をプロジェクターで投写できます。なおWindows Vistaでは、Windows Vistaの仕様上この機能は使用できません。

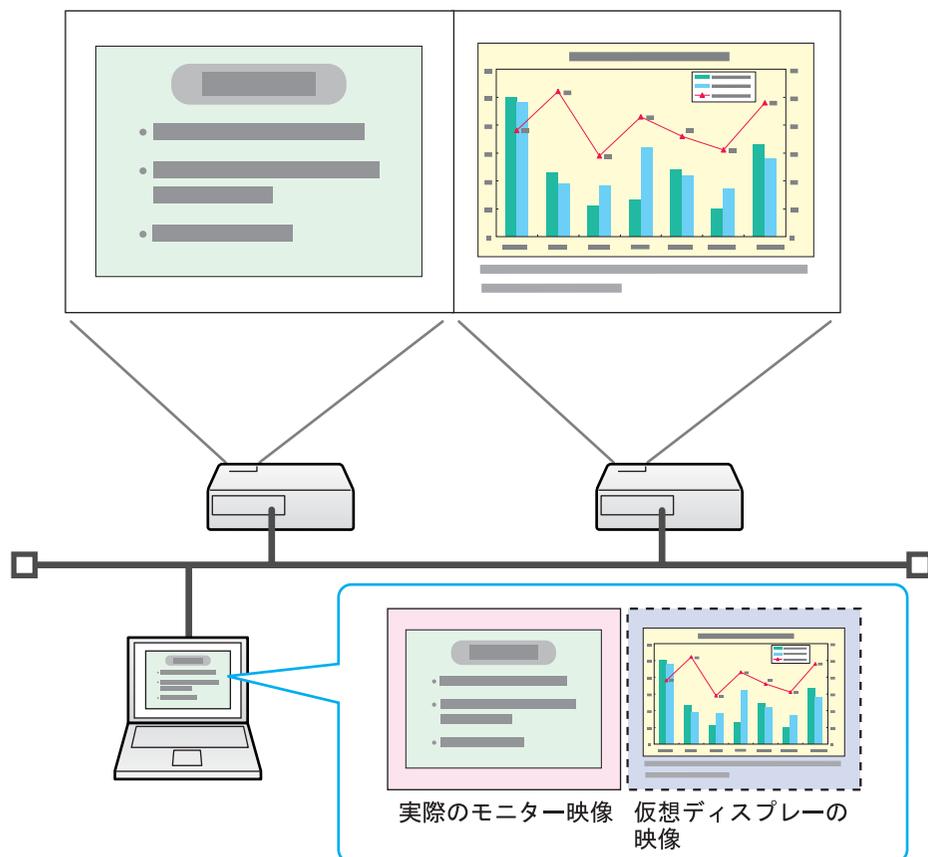
Macintoshの場合は、マルチスクリーンディスプレイ機能を使用するにはコンピューターに実際に外付けのモニターを接続しておく必要があります。以降の説明で仮想ディスプレイとある箇所は、Macintoshの場合実際に接続されているモニター画面に対する操作となります。



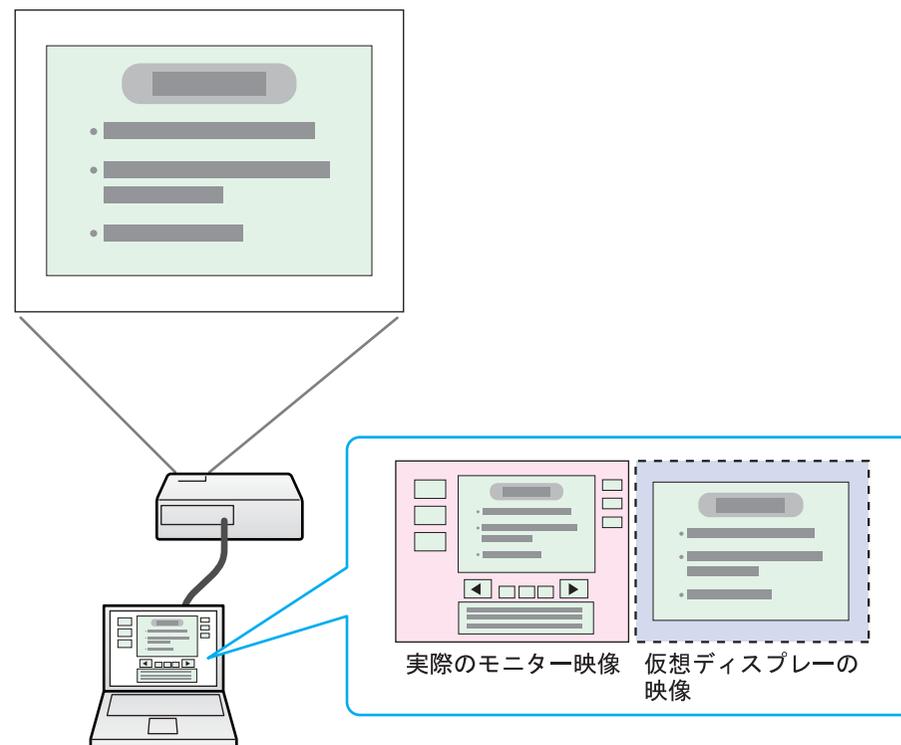
## 仮想ディスプレイの配置例

仮想ディスプレイの配置を工夫することで、プレゼンテーションを行うときに見せたい映像だけをプロジェクターに投写したり、左右で違った映像を配置して投写できます。

### 配置例1



### 配置例2



## マルチスクリーンディスプレイ機能を使用するまでの流れ

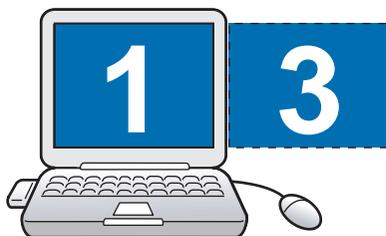
1. 仮想ディスプレイの設定 [p.24](#)  
Windows環境では、必要に応じ仮想ディスプレイドライバを有効にします。また、Windows、Macintoshとも仮想ディスプレイの配置を設定します。
2. 投写する映像を割り当てる [p.28](#)  
投写するファイルを起動し、実際に投写する配置に合わせて仮想ディスプレイに画面を移動します。

### 3. 割り当てた映像を投写する p.29

ネットワークを介して接続したプロジェクターに仮想ディスプレイの番号を割り当てて投写します。

## 仮想ディスプレイの設定

以下のようなイメージで仮想ディスプレイを接続します。



### 仮想ディスプレイドライバを有効にする(Windowsのみ)

仮想ディスプレイ▶のドライバを有効にします。以下の方は、この操作は不要です。次の仮想ディスプレイの配置(Windowsの場合)、または仮想ディスプレイの配置(Macintoshの場合)に進んでください。

 p.24

- EMP NS Connectionインストール時に、仮想ディスプレイを有効にした方。
- Macintoshをお使いの方。

### 操作

① コンピューターでWindowsを起動し、「スタート」 - 「プログラム」(またはすべてのプログラム) - EPSON Projector - EPSON Virtual Displayの追加と削除の順に選択します。

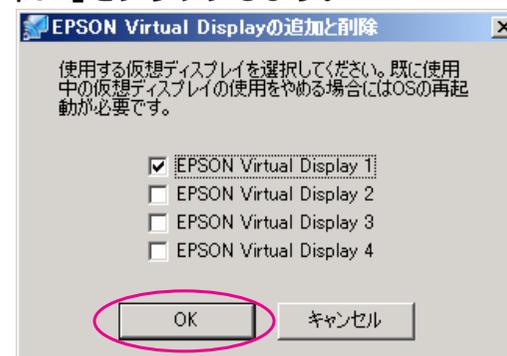
EPSON Virtual Displayの追加と削除画面が表示されます。

② 使用する「仮想ディスプレイ」にチェックを付けます。

実際のモニターに加えて4つまで追加できます。ここでは、仮想ディスプレイを1つ使うので1つにチェックマークを付けます。仮想ディスプレイを複数設定するときは必要な数だけチェックを付けます。

チェックを付ける番号はどれでもかまいません。

③ 「OK」をクリックします。



OKをクリックすると、仮想ディスプレイを使用するためのドライバが有効になります。途中で画面がちらつきますが異常ではありません。EPSON Virtual Displayの追加と削除画面が閉じるまでしばらくお待ちください。

### 仮想ディスプレイの配置

EMP NS Connectionを起動し、仮想ディスプレイを配置する方法をWindowsの場合とMacintoshの場合で分けて説明します。



無線LANで接続するときは、EMP NS Connectionを起動する前に、以下の点を確認してください。以下の点が正しく設定されていないとマルチスクリーンディスプレイを行うことはできません。

- コンピューターと各プロジェクターのSSIDが一致している。
- コンピューターと各プロジェクターの無線LANカードの無線LAN方式が一致している。  
プロジェクターのSSIDや無線LAN方式は、プロジェクターの環境設定メニューのネットワークメニューで変更できます。☞ [取扱説明書](#)「無線LANメニュー」

## 操作

### Windowsの場合

1

「スタート」 - 「プログラム」(またはすべてのプログラム) - 「EPSON Projector」 - EMP NS Connectionの順に選択し、EMP NS Connectionを起動します。

2

「マルチディスプレイを使用する」にチェックマークを付けます。



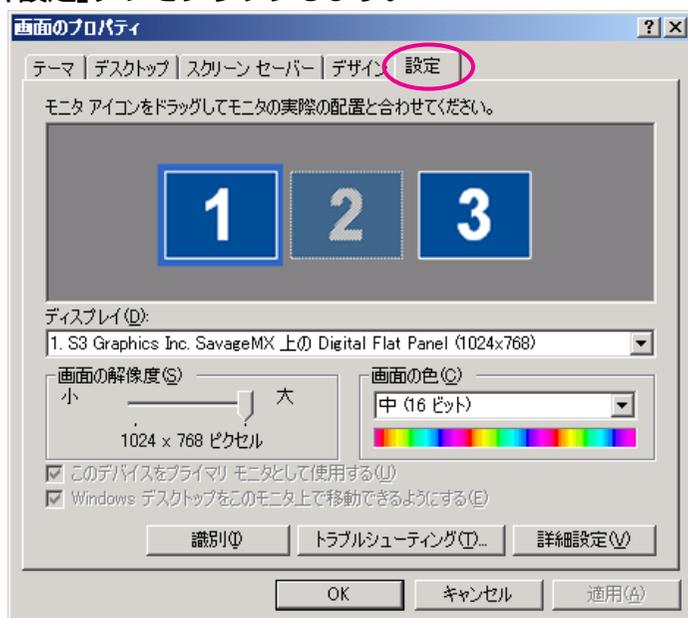
画面の下側にディスプレイ配置とディスプレイのプロパティが追加表示されます。

### 3 「ディスプレイのプロパティ」をクリックします。



画面のプロパティ画面が表示されます。

### 4 「設定」タブをクリックします。



### 5 表示されているモニターアイコンをドラッグしてどのように配置するかを決めます。

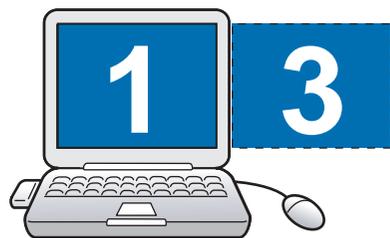
ここでは、実際のモニター(1)を左側に、仮想ディスプレイ(3)を右側に配置します。

コンピューターにディスプレイ出力端子が複数あるときは、仮想ディスプレイの番号はそれに続く番号が割り当てられます。



- セカンダリーモニターとして外付けのモニターを接続しているときには、その画面の映像は投写できません。
- ハードウェアによってはセカンダリーモニターが(2)にならないことがあります。モニターアイコンを配置するときは、そのアイコンをクリックしディスプレイのモニター種別がセカンダリーモニターになっていないことを確認してください。
- 画面の解像度の設定は次を参照してください。 p.56

モニターアイコンを配置すると以下のようなイメージで仮想ディスプレイが接続されます。



- ⑥ 「OK」ボタンをクリックして画面のプロパティ画面を閉じます。  
 ここまでで仮想ディスプレイの配置が決まりました。  
 続いて投写する映像を割り当てます。 ➡ p.28

## Macintoshの場合

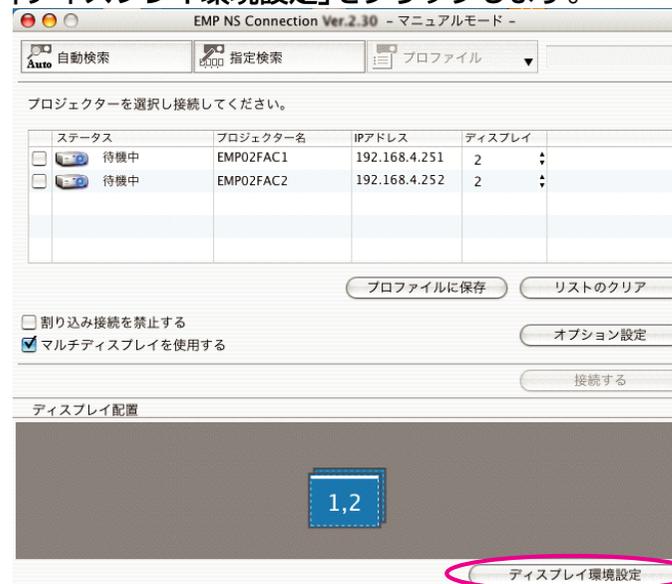
- ① EMP NS Connectionを起動します。EMP NS Connectionをインストールしたハードディスクボリュームから「アプリケーション」フォルダーをダブルクリックし、「EMP NS Connection」のアイコンをダブルクリックして、EMP NS Connectionを起動します。  
 ここではマニュアルモードを選択して起動します。

- ② 「マルチディスプレイを使用する」にチェックマークを付けます。



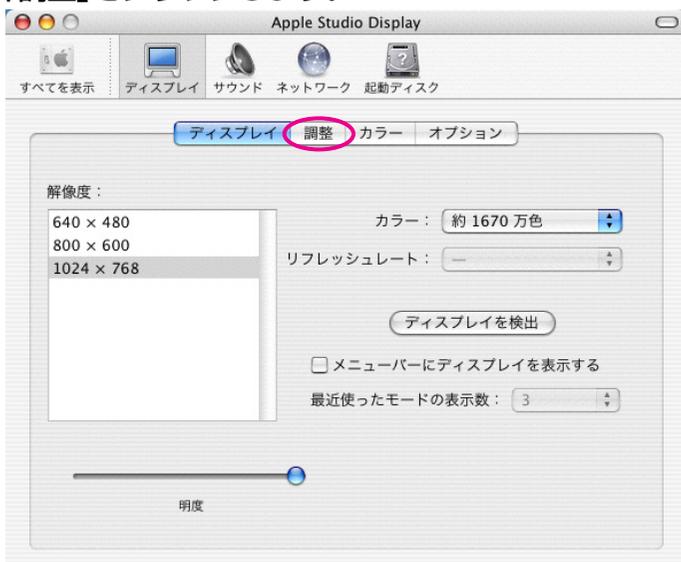
画面の下側にディスプレイ配置とディスプレイ環境設定が追加表示されます。

- ③ 「ディスプレイ環境設定」をクリックします。

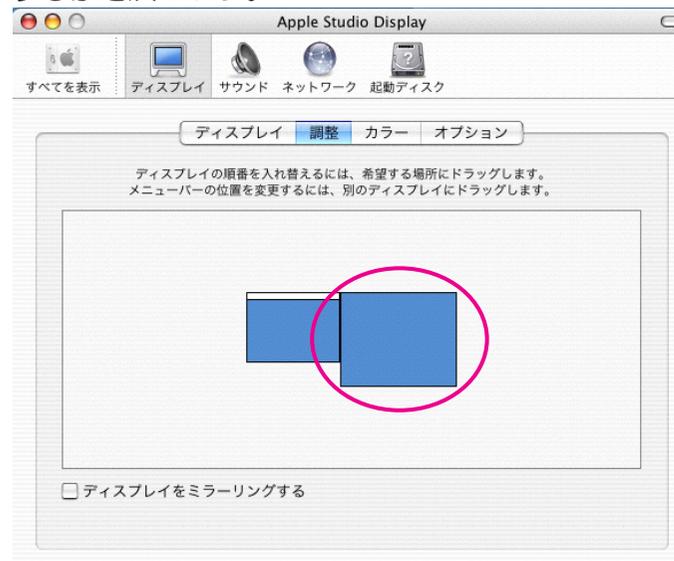


ディスプレイの設定画面が表示されます。

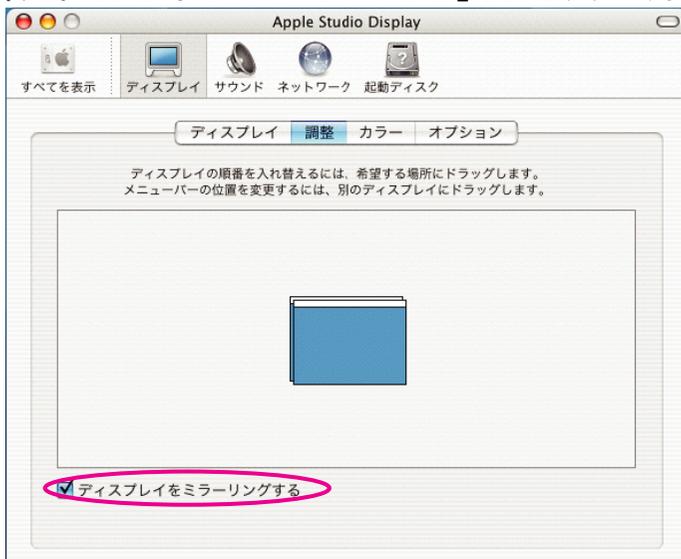
4 「調整」をクリックします。



6 表示されているモニターアイコンをドラッグしてどのように配置するかを決めます。



5 「ディスプレイをミラーリングする」のチェックを外します。



7 ディスプレーの設定画面を閉じます。  
ここまでで画面の配置が決まりました。

## 投写する映像を割り当てる

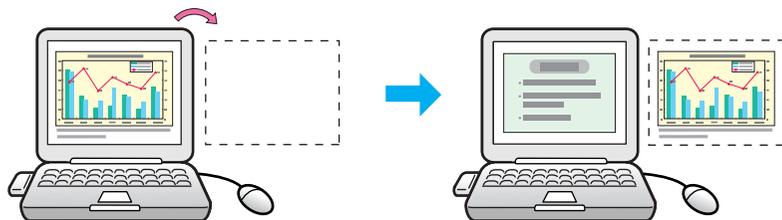
ここでは、仮想ディスプレイの配置例1を例に説明します。👉 p.23

### 操作

1 投写するファイルを起動します。  
PowerPointファイルとExcelファイルを起動します。

② 映したい仮想ディスプレイへウィンドウをドラッグして、どのウィンドウをどこに映すかを割り当てます。

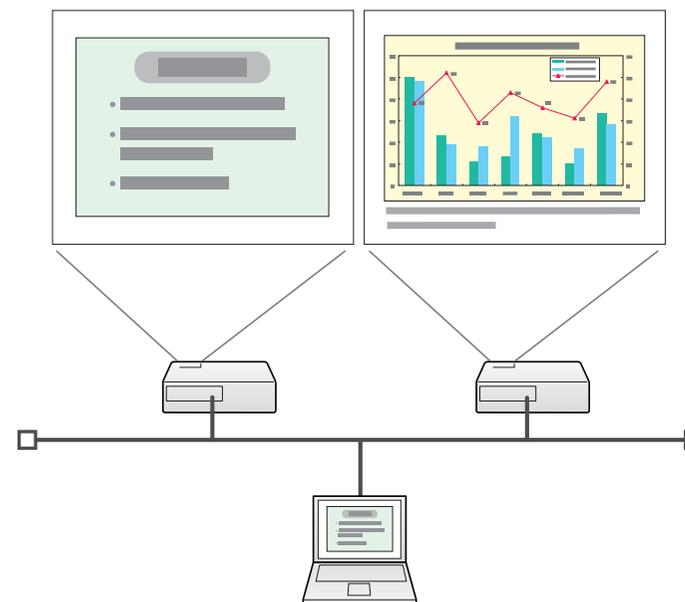
Excelのウィンドウを右方向へ見えなくなるまでドラッグします。結果として、実際のモニターにPowerPointのウィンドウが、右の仮想ディスプレイにExcelのウィンドウが配置されました。



② 「接続する」をクリックします。



各プロジェクターに割り当てた映像が投写されます。



Windows環境でお使いのときは、仮想ディスプレイに配置した画面を、コンピューター上では見ることができません。仮想ディスプレイの画面操作は投写されている映像を見ながら行ってください。

## 割り当てた映像を投写する

ここでは、仮想ディスプレイの配置例1を例に説明します。👉 p.23

### 操作

① ディスプレーから割り当てる仮想ディスプレイの番号を選択して、どのプロジェクターでどの仮想ディスプレイの映像を投写するのかを設定します。



仮想ディスプレイでのマウス操作は、仮想ディスプレイを配置している方向へマウスポインターを移動し、投写画面にマウスポインターが現れることで行えるようになります。

- 3 マルチスクリーンディスプレイへの投写を終了するには、ツールバーの「切断する」をクリックします。



Windows環境でお使いのときは、仮想ディスプレイのドライバが有効になっているとマウスポインターを画面の表示領域外に移動できるため、マウスポインターがどこにあるかわからなくなったと感ずることがあります。仮想ディスプレイを使用しないときは、EPSON Virtual Displayの追加と削除画面で仮想ディスプレイのチェックを外すと、マウスポインターが画面の表示領域内に戻ります。マルチスクリーンディスプレイを使用する際は、再びEPSON Virtual Displayの追加と削除画面でチェックを付けてください。チェックを外す操作は次を参照してください。  [p.24](#)



## サブネットが異なるプロジェクターと接続したいとき

ここでは、既存のネットワークシステムに接続された有線LANまたは無線LANアクセスポイントを経由して、コンピューターをサブネットが異なるプロジェクターに接続する方法を説明します。

初期状態では本アプリケーションは同一のサブネット内でのみ検索を行います。そのため、サブネットの異なるネットワークに接続されているプロジェクターは、検索してもそのままでは見つかりません。サブネットの異なるプロジェクターを検索して接続するには次の方法があります。

- IPアドレスまたはプロジェクター名を指定して検索する

IPアドレスを直接入力して検索できます。また、接続したいプロジェクター名がDNSサーバーに登録されているときはそのプロジェクター名を入力して検索することもできます。  [p.33](#)

- プロファイルを使って検索する

一度IPアドレスやプロジェクター名を指定してサブネットの異なるプロジェクターを検索した結果を、分かりやすい名前プロファイルとして保存しておく、次回からはそのプロファイルを使ってサブネットの異なるプロジェクターを検索できるようになります。

 [p.34](#)



プロジェクターが見つからない一般的な原因として、次のものが考えられます。該当するときは原因に応じて対処してください。

#### Windows/Macintosh共通

- 無線LANの電波が届かない、弱いとき  
電波の妨げになっているものがないか確認してください。  
本機にオプションの無線LANユニットを装着し、Macintoshと無線LAN接続する場合
- AirMac:入になっていないか適切なアクセスポイントを選択していないとき  
AirMacが入になっているか確認してください。または、目的のアクセスポイントを選択しているか確認してください。

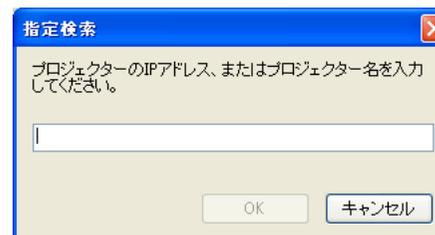
以降の説明では、断りのない限りWindowsの画面を載せています。  
Macintoshでも同等の画面が表示されます。

## 操作

- 1 EMP NS Connectionのプロジェクター選択画面で、「指定検索」をクリックします。



- 2 接続したいプロジェクターのIPアドレス、またはプロジェクター名を入力して「OK」をクリックします。



EMP NS Connectionのプロジェクター選択画面に検索結果が表示されます。

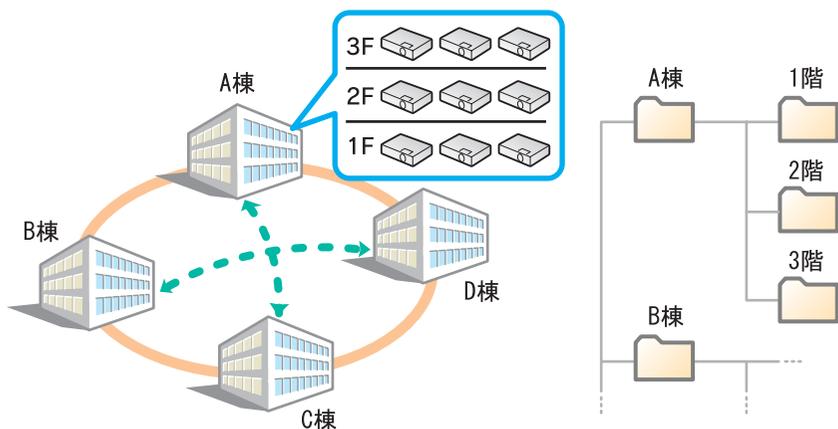
目的のプロジェクターが見つかったら、そのプロジェクターを選択し、接続するボタンをクリックして接続してください。

そのプロジェクターをいつも使うときは、プロファイルに保存しておくと、毎回指定検索をしなくて済みます。👉 p.34



かんたんモードで指定検索を使うとSSIDを指定できます。プロジェクターが多いときに検索対象をSSIDで絞り込むことができます。

よく使うプロジェクターは、プロフィールとして保存しておくことができます。プロフィールとはプロジェクター名、IPアドレス、SSIDといったプロジェクター情報をひとまとめにしたファイルです。次回からはその情報を指定して検索すると、その都度IPアドレスやプロジェクター名を指定して検索しなくて済みます。例えば、プロジェクターを設置している場所ごとにプロフィールのグループを作って、フォルダーで管理すると目的のプロジェクターを素早く見つけることができます。



ここでは、プロフィールの作成、編集方法を説明します。

## プロフィールを作成する

プロフィールは、検索した結果を保存して作成します。

いったん保存したプロフィールの編集は次を参照してください。

☛ p.36

### 操作

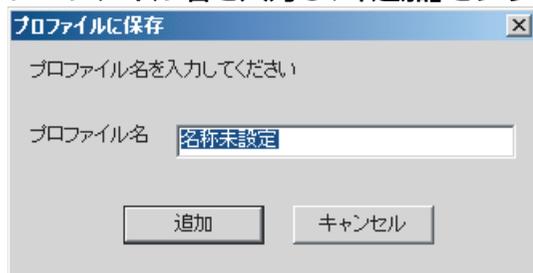
1

EMP NS Connectionプロジェクター選択画面にプロジェクターが表示された状態で、「プロフィールに保存」をクリックします。



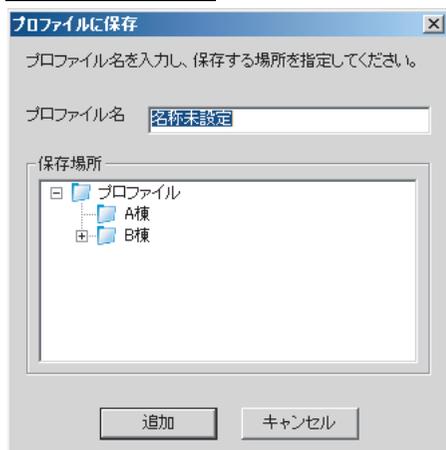
プロフィールに保存画面が表示されます。

## 2 プロファイル名を入力し、「追加」をクリックします。

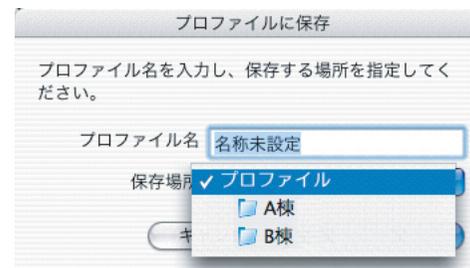


プロフィールにプロジェクター情報が登録されます。すでにプロフィールを作成していた場合は、上書きしてよいか確認します。別名で保存したいときは、別名で保存を選べます。なお、プロフィールにフォルダーを作成しているときは以下の画面が表示されますので、プロフィール名を入力し、保存場所を選択してから追加をクリックします。

### Windowsの場合



### Macintoshの場合



プロフィールにフォルダーを作成する方法は次を参照してください。 p.36

## プロフィールを指定して検索

作成したプロフィールを指定して検索します。

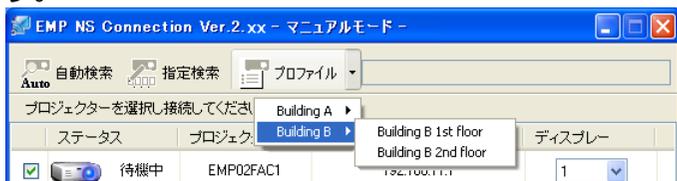
**操作**

① EMP NS Connectionのプロジェクト選択画面で、「プロフィール」をクリックします。

プロフィールが登録されていないときは、プロフィールは選択できません。



② 表示されたメニューから、接続したいプロジェクトを選択します。



EMP NS Connectionのプロジェクト選択画面に検索結果が表示されます。

目的のプロジェクトが見つかったら、そのプロジェクトを選択し、**接続する**をクリックして接続してください。

## プロフィールを管理する

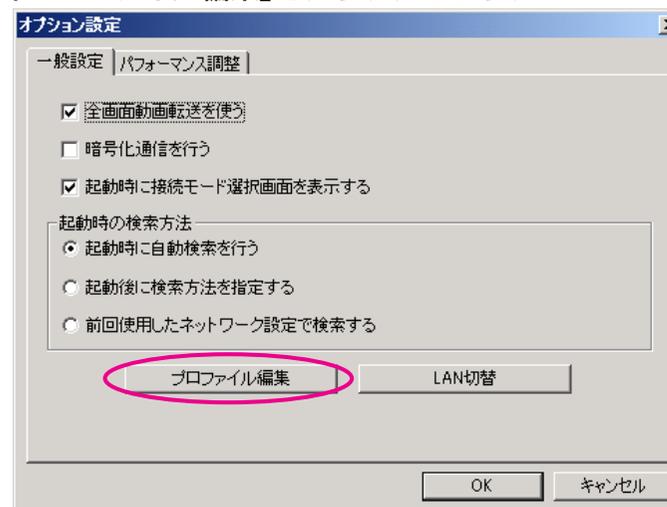
プロフィールの名称や階層構成を変更します。

**操作**

① EMP NS Connectionのメイン画面で「オプション設定」をクリックします。

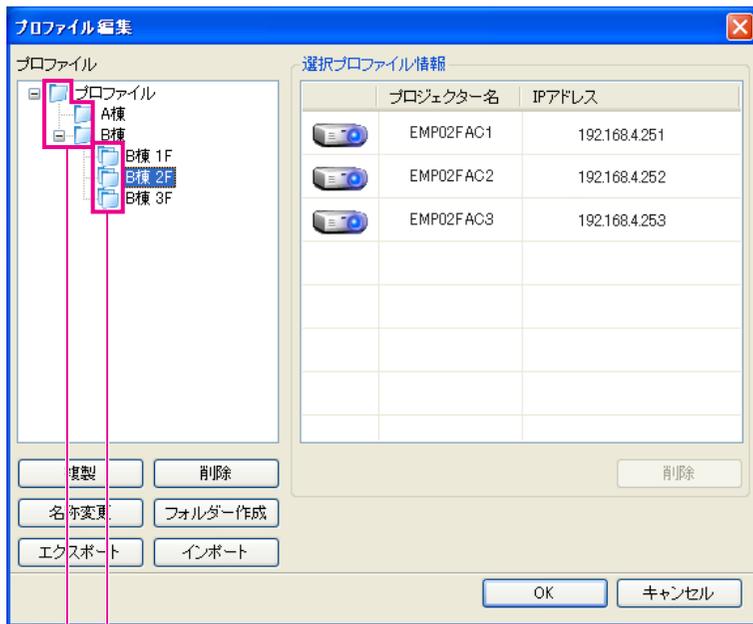
オプション設定画面が表示されます。

② 「プロフィール編集」をクリックします。



プロフィール編集画面が表示されます。

3 プロファイルの登録内容を編集します。



 : フォルダを示しています。  
 : プロファイルを示しています。

プロファイル	
項目	機能
プロファイル	登録されているプロファイルが表示されます。フォルダを作成して管理できます。プロファイル、またはフォルダの並び順は、ドラッグ&ドロップで移動できます。
複製	プロファイルを複製します。複製したプロファイルは、複製元ファイルの名称と同じ名称で複製元のファイルと同じフォルダに保存されます。
削除	プロファイル、またはフォルダを削除します。

プロファイル	
項目	機能
名称変更	名称変更ダイアログが表示され、フォルダ名、またはプロファイル名を変更できます。名称変更ダイアログで入力できる文字数は32文字までです。
フォルダ作成	新たにフォルダを作成できます。
エクスポート	作成したプロファイルのエクスポートし、インポートすると、そのプロファイルを使えます。
インポート	エクスポートしたプロファイルを読み込んで使いたいときなどに利用します。

選択プロファイル情報	
項目	機能
プロジェクター名、IPアドレス	プロファイルに登録されているプロジェクター情報が表示されます。
削除	選択したプロジェクター情報を削除します。すべてのプロジェクター情報を削除するとプロファイルも削除されます。

4 「OK」をクリックします。  
 編集した結果を保存してプロファイル編集画面を閉じます。



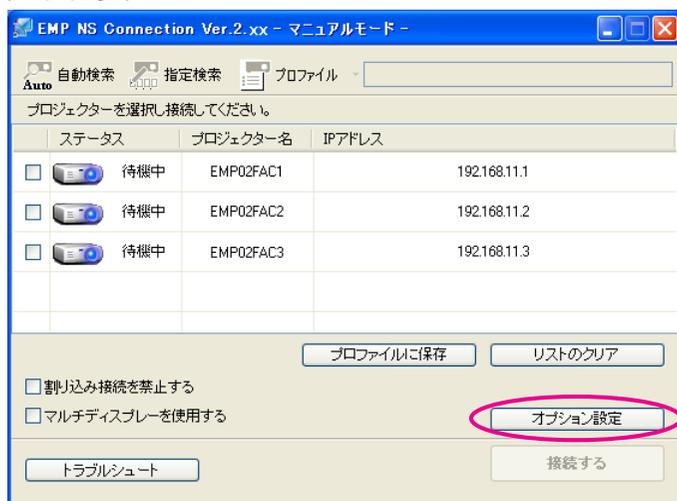
# EMP NS Connectionの動作を設定する

EMP NS Connection起動時の処理方法などを設定します。

EMP NS Connection起動時の処理方法などを設定します。  
オプション設定は、EMP NS Connectionのメイン画面から呼び出します。

## 操作

- 1 EMP NS Connectionのメイン画面で「オプション設定」をクリックします。

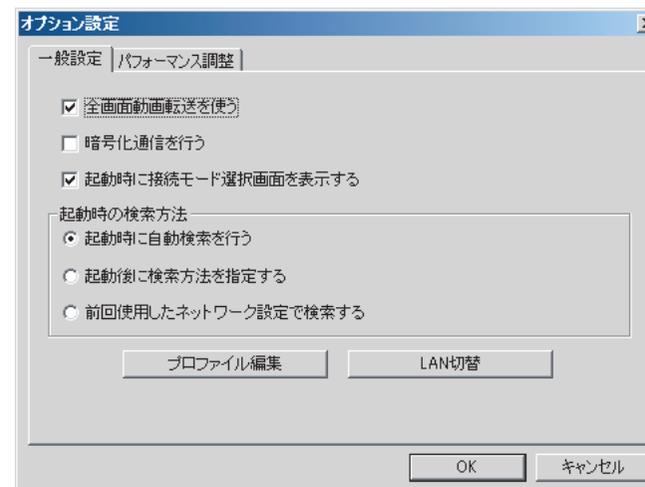


オプション設定画面が表示されます。

- 2 各項目を設定します。

設定項目の詳細は次項で確認してください。設定し終わったら、**OK**をクリックしてオプション設定画面を閉じます。

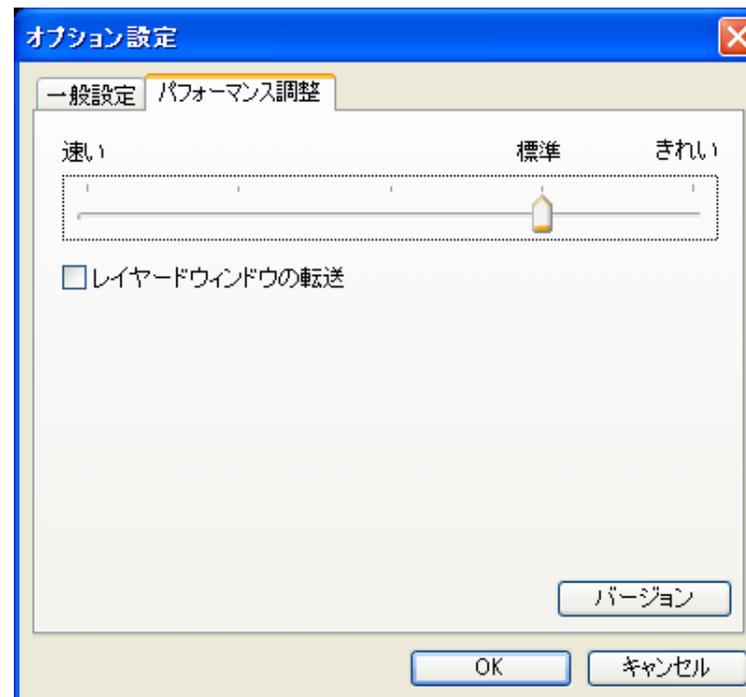
## 一般設定タブ



<b>全画面動画転送を使う</b>	Windowsのみ(Windows Vistaは除く) Windows Media Playerを全画面表示したいときはチェックを付けます。ただし、動きがなめらかでないと感じる場合はチェックを外してください。 本機では、動作しません。
<b>暗号化通信を行う</b>	チェックを付けるとデータを暗号化して送信します。データを傍受されても、解読されません。 かんたんモードで使うときは必ず設定してください。
<b>起動時に接続モード選択画面を表示する</b>	EMP NS Connectionの起動時にかんたんモード/マニュアルモードの選択画面を表示する/しないを設定します。 いつも起動方式が決まっているときはチェックを外してください。

<b>起動時の検索方法</b>	EMP NS Connection起動時に実行するプロジェクトの検索方法を以下から選択します。 起動時に自動検索を行う 起動後に検索方法を指定する 前回使用したネットワーク設定で検索する
<b>プロフィール編集</b>	プロファイル編集ダイアログが表示されます。  <a href="#">p.36</a>
<b>LAN切替</b>	Windowsのみ ネットワークアダプタ切り替えダイアログが表示されます。複数のネットワークアダプタを使えるコンピュータで、検索に使うアダプタを切り替えるときに使います。 初期設定ではすべてのネットワークアダプタを使用して検索します。接続方法がいつも有線LANで固定のときには有線LANのアダプタを選択します。

## パフォーマンス調整タブ



<b>調整用スライダー</b>	速い、標準、きれいでパフォーマンスを調整できます。 動画の投写映像が途切れるような場合は、速い側へ設定してください。
-----------------	---

## レイヤードウィンドウの転送

Windowsのみ(Windows Vista は除く)

レイヤードウィンドウを転送する/しないを設定します。

コンピューター画面に表示されているメッセージなどがプロジェクターで投写されないときは、レイヤードウィンドウが使われています。チェックを付けるとレイヤードウィンドウを使ったメッセージなども投写されます。

コンピューター画面に表示されているマウスカーソルがちらつくときはチェックをはずします。



ツールバーの  をクリックするとパフォーマンス調整タブのみ表示されます。



# コンピューターを使ってプロジェクターの設定・監視・制御をする

ここでは、ネットワークを介して接続したコンピューターを使って、プロジェクターの設定を変更したり、管理したりする方法を説明しています。

プロジェクターとネットワーク接続したコンピューターのWebブラウザを利用して、コンピューターからプロジェクターの設定や制御が行えます。この機能を使えば、プロジェクターから離れた場所から、設定や制御の操作ができます。また、キーボードを使って設定内容を入力できるので、文字の入力を伴う設定も容易にできます。

Webブラウザは、Microsoft Internet Explorer6.0以降を使用してください。Macintoshをお使いの場合は、Safariも使用できます。ただし、Macintosh 10.2.8でSafariをお使いの場合はWeb制御上のラジオボタンが一部正しく表示されないことがあります。



プロジェクターの環境設定メニューの**拡張設定 - 待機モードをネットワーク有効**に設定しておく、プロジェクターがスタンバイ状態(電源OFFの状態)でも、Webブラウザを使った設定や制御ができます。

## Web制御を表示する

以下の手順で、Web制御を表示します。



ご使用のWebブラウザで、プロキシサーバーを使用して接続するように設定されていると、Web制御を表示できません。表示したい場合は、プロキシサーバーを使用しないで接続するように設定してください。

## プロジェクターのIPアドレスを入力する

マニュアルモードを利用する場合は、次のようにプロジェクターのIPアドレスを指定してWeb制御を開くことができます。

### 操作

- 1 コンピューターでWebブラウザを起動します。

### 2

Webブラウザのアドレス入力部に、プロジェクターのIPアドレスを入力し、コンピューターのキーボードの「Enter」キーを押します。

Web制御が表示されます。

プロジェクターの環境設定メニューのネットワークメニューでWeb制御パスワードを設定しているときは、ユーザー名とパスワードを入力する画面が表示されます。

## プロジェクターの設定

プロジェクターの環境設定メニューで設定する項目を設定できます。設定した内容は、環境設定メニューに反映されます。また、Webブラウザでのみ設定できる項目もあります。

## Webブラウザで設定できない環境設定メニューの項目

次の項目を除いて、プロジェクターの環境設定メニューの項目を設定できます。

- 設定メニュー - ポインター形状
- 設定メニュー - テストパターン
- 設定メニュー - ユーザーボタン
- 拡張設定メニュー - ユーザーロゴによるユーザーロゴの登録
- 拡張設定メニュー - 言語
- 拡張設定メニュー - 動作設定 - 高地モード
- 拡張設定メニュー - 動作設定 - レンズカバータイマー
- 初期化メニュー - 全初期化、ランプ点灯時間初期化

各メニューの項目の内容はプロジェクター本体の環境設定メニューと同じです。

☛ 『取扱説明書』『機能一覧』

### Webブラウザでのみ設定できる項目

Webブラウザで設定できる項目は以下のとおりです。

- SNMPコミュニティ名
- WEP認証方式(Open/Shared)

プロジェクターの環境設定メニューでメール通知機能の設定をしておくと、プロジェクターが異常/警告状態になったとき、設定したメールアドレスに異常状態が電子メールで通知されます。これにより、離れた場所においてもプロジェクターの異常を知ることができます。

☛ 『取扱説明書』「ネットワークメニュー」, 『取扱説明書』「メールメニュー」



- 送信先(宛先)は最大3つまで記憶でき、一括して送ることができます。
- プロジェクターに致命的な異常が発生し、瞬時に起動停止状態になった場合などは、メール送信できないことがあります。
- プロジェクターの環境設定メニューで**拡張設定 - 待機モード**を**ネットワーク有効**に設定しておくと、プロジェクターがスタンバイ状態(電源OFFの状態)でも、監視ができます。

プロジェクターの環境設定メニューでSNMPの設定をしておくと、プロジェクターが異常/警告状態になったとき、設定したコンピューターに異常状態が通知されます。これにより、離れた場所で集中管理している状態でもプロジェクターの異常を知ることができます。

☛ 『取扱説明書』「ネットワークメニュー」, 『取扱説明書』「その他メニュー」



- SNMPによる管理は、必ず、ネットワーク管理者などネットワークに詳しい人が行ってください。
- SNMP機能を使ってプロジェクターを監視するには、コンピューター側にSNMPマネージャプログラムがインストールされている必要があります。
- SNMPを使った管理機能は、無線LANのかんたんモードでは使用できません。
- 通知先のIPアドレスは2つまで登録できます。



# スライドショーを使ったプレゼンテーション

ここでは、USBストレージに保存されている画像ファイルをプロジェクターで直接投写するスライドショーの操作方法を説明します。

スライドショーは、デジタルカメラやUSBストレージをプロジェクターに装着して、保存されているファイルを直接投写できます。



USBストレージでセキュリティー機能が付いている機種は、使用できないことがあります。

## スライドショーで投写できるファイルの仕様

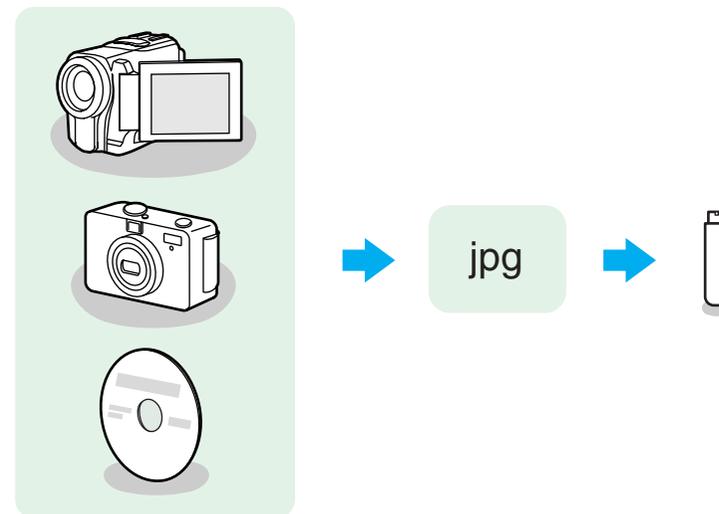
種類	ファイルタイプ (拡張子)	備考
画像	.jpg	以下の場合には投写できません。 <ul style="list-style-type: none"><li>・CMYKカラーモード形式</li><li>・プログレッシブ形式</li><li>・解像度が4608x3072を超えるもの</li><li>・拡張子が.jpegのファイル</li></ul> JPEGファイルの特性上、圧縮率が高いと画像がきれいに投写されないことがあります。



- USBハードディスクを使用するときは、ACアダプタで電源供給することを推奨します。
- 一部のファイルシステムに対応できないことがありますので、Windows上でフォーマットしたメディアをお使いください。
- メディアはFAT16/32でフォーマットしてください。

## スライドショーの利用例

### USBストレージなどに保存した画像を投写



例1：複数の画像を用意して連続再生する(スライドショー)  [p.52](#)

例2：画像ファイルをひとつひとつ選んで投写する  [p.52](#)

スライドショーでは、デジタルカメラやUSBストレージ内の画像ファイルを再生し、投写できます。  
ここでは、スライドショーの基本的な使用方法について説明します。

## スライドショーの起動と終了

### スライドショーの起動方法

#### 操作

- 1 投写映像をUSBに切り替えます。  
☛ 『取扱説明書』「投写映像を切り替える」
- 2 プロジェクターに、USBストレージを接続するとスライドショーが起動します。  
USBストレージの接続方法は以下を参照してください。
  - デジタルカメラまたはUSBストレージ ☛ 『取扱説明書』「USB機器の接続と取り外し」
  - USBマルチカードリーダー(メモリーカードをセットした状態)  
市販のUSBカードリーダーには、本機で使用できないものがあります。 ☛ 『取扱説明書』「USB機器の接続と取り外し」

### スライドショーの終了方法

#### 操作

スライドショーを終了するには、接続しているUSBストレージを抜き取ります。

## スライドショーの基本操作

以下ではスライドショーで画像を再生、投写する操作を説明します。

## 操作

- 1  ボタンまたは操作パネルの[△]、[▽]、[◀]、[▶]ボタンを押して、操作の対象となるファイルまたはフォルダーにカーソルを合わせます。



- JPEGファイルはサムネイル表示(ファイルの内容が小さい画像で表示)されます。
- JPEGファイルによっては、サムネイル表示に切り替えてもサムネイルが表示できないことがあります。その場合はファイルアイコンが表示されます。



現在表示中の画面にすべてのファイルやフォルダーが表示しきれていない場合は、リモコンの[▲]ボタンを押すか、次のページにカーソルを合わせて[決定]ボタンを押します。  
前の画面に戻る場合は、リモコンの[▼]ボタンを押すか、前のページにカーソルを合わせて[決定]ボタンを押します。

## 2

[決定]ボタンを押します。

選択した映像が表示されます。  
フォルダーを選択したときは、フォルダー内のファイルが表示されます。フォルダーを開いた画面で、上へ戻るを選択して[決定]ボタンを押すとフォルダーを開く前の画面に戻ります。

## 画像を回転する

スライドショーで再生したJPEG形式の画像を90°単位で回転できます。スライドショー実行時に再生されるJPEG形式の画像も回転できます。

次の手順でJPEG形式の画像を回転します。

## 操作

## 1

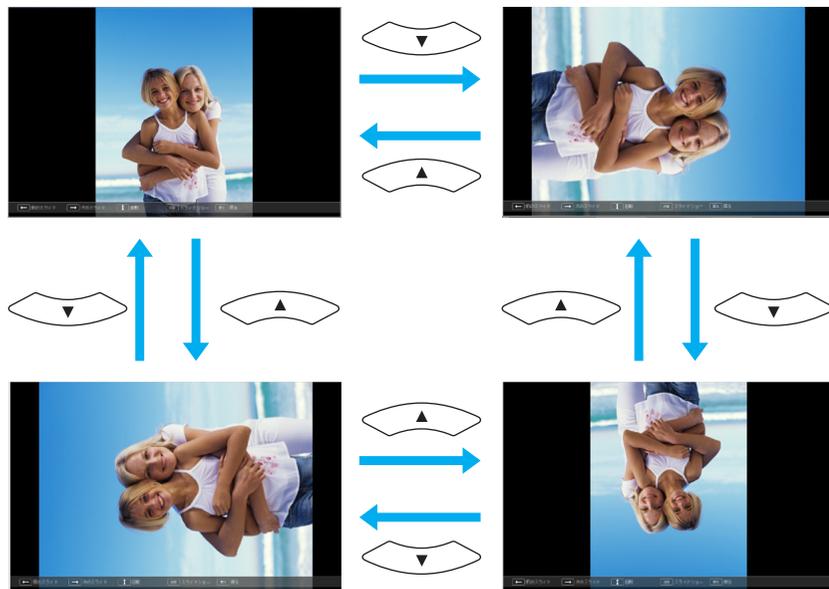
JPEG形式の画像を再生するか、スライドショーを実行します。

JPEG形式の画像の再生  p.52

スライドショーの実行  p.53

② JPEG形式の画像が再生されたら、[]ボタンまたは[]ボタンを押します。

操作パネルの[][]でも操作できます。



デジタルカメラの画像ファイル、USBストレージ内の画像ファイルをスライドショーで投写するには、次の2通りの方法があります。

- 選択した画像ファイルの投写  
1つのファイルの内容を再生して投写する機能です。
- フォルダ内の画像ファイルの順次投写(スライドショー)  
フォルダ内のファイルの内容を、順番に1つずつ再生して投写する機能です。

## 注意

USBストレージにアクセス中はUSBストレージの接続を外さないでください。スライドショーに異常が発生する場合があります。

以降の操作はリモコンまたは本体パネルで行います。

## 画像を投写する

### 操作

- 1 スライドショーを起動します。  p.49  
接続しているデジタルカメラやUSBストレージの内容が表示されます。

2

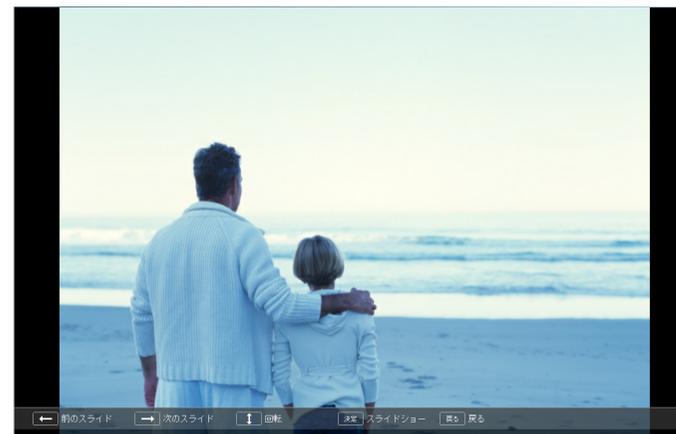
 ボタンまたは本体パネルの  ボタンを押して、投写する画像ファイルにカーソルを合わせます。



画像ファイル

3

[決定]ボタンを押します。  
画像の再生が始まります。



4

次の操作をするとファイル一覧に戻ります。  
● 静止画を投写中：[戻る]ボタンを押す。

## フォルダー内のすべての画像ファイルを順番に投写する(スライドショー)

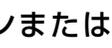
フォルダー内の画像ファイルを順番に1つずつ投写できます。この機能をスライドショーと呼びます。以下の手順でスライドショーを実行します。



スライドショーでファイルを自動的に切り替えて表示するには、スライドショーのオプションで表示時間設定をなし以外に設定してください。初期設定：なし  p.54

### 操作

- 1** スライドショーを起動します。  p.49

接続しているデジタルカメラやUSBストレージの内容が表示されます。
- 2**     ボタンまたは本体パネルの[△]、[▽]、[◀]、[▶]ボタンを押して、スライドショーを実行するフォルダーにカーソルを合わせ[決定]ボタンを押します。
- 3** ファイル一覧画面の下部でスライドショーを選択して、[決定]ボタンを押します。

スライドショーが実行され、自動的にフォルダー内の画像ファイルが順次1つずつ投写されます。

最後まで投写すると、自動的にファイル一覧表示に戻ります。オプション画面で**繰り返し再生をオン**に設定しているときは、最後まで投写すると最初から投写を繰り返します。  p.54

スライドショー投写中は次画面に送る、前画面に戻す、再生を中止することができます。



オプションで表示時間設定をなしに設定している場合、スライドショー再生を実行しても自動的にファイルが切り替わりません。リモコンの[決定]または[▼]ボタンを押して、次のファイルを投写します。

画像ファイルをスライドショー再生する場合の表示条件を設定できます。

## 操作

① [戻る] [戻る] [戻る] [戻る] ボタンまたは本体パネルの [戻る] [戻る] [戻る] [戻る] ボタンを押して、表示条件を設定するフォルダーにカーソルを合わせ [戻る] ボタンを押します。表示されたメニューで「オプション」を選択して [決定] ボタンを押します。

② 次のオプション設定画面が表示されますので、各項目を設定します。

変更したい項目の設定にカーソルを合わせて決定ボタンを押すと、設定が有効になります。各項目の詳細は次の表のとおりです。



<b>表示順序設定</b>	表示するファイルの順番を設定します。ファイル名順、更新日付を昇降順で選択できます。
<b>繰り返し再生</b>	繰り返しスライドショーを実行するかを設定します。
<b>表示時間設定</b>	スライドショー再生で、1つのファイルを表示する時間を設定します。なし(0)～60秒までの設定ができます。なしに設定したときは、自動送りは無効となります。

③ [戻る] [戻る] [戻る] [戻る] ボタンまたは本体パネルの [戻る] [戻る] [戻る] [戻る] ボタンを押して「OK」にカーソルを合わせて、[決定] ボタンを押します。

設定が適用されます。設定を適用したくない場合は、キャンセルにカーソルを合わせて、[決定] ボタンを押します。



# 付 録

EMP NS Connectionを起動してコンピューターの映像を投写するときは、以下の制限事項があります。ご確認ください。

マルチスクリーンディスプレイの動作保証は16ビット・32ビットカラーです。

## 対応解像度

投写可能なコンピューターの画面解像度は、次のとおりです。**UXGA**を超える解像度のコンピューターとは接続できません。

- **VGA** (640x480)
- **SVGA** (800x600)※
- **XGA** (1024x768)※
- **SXGA** (1280x960)
- **SXGA** (1280x1024)※
- **SXGA+** (1400x1050)※
- **WXGA** (1280x768)
- **WXGA** (1280x800)
- **WXGA+** (1440x900)
- **UXGA** (1600x1200)

※マルチスクリーンディスプレイ機能時の対応解像度

縦横比が特殊な画面のコンピューターの場合は、前述の対応解像度10種類のうちから横方向の画素数が一致する解像度で投写されます。このとき、横長画面では縦方向の余白部分が、縦長画面では横方向の余白部分が黒く投写されます。

## 表示色

投写可能なコンピューターの画面の色数は、次のとおりです。

Windows	Macintosh
16ビットカラー	約32000色(16ビット)
32ビットカラー	約1670万色(32ビット)

## 接続台数

1台のコンピューターに、最大4台までのプロジェクターを接続して同時に映像を投写できます。複数のコンピューターから1台のプロジェクターに同時に接続することはできません。

## その他

- 無線LANの通信速度が低速の場合、接続しても切断されやすい状態となり、予期しないときに切断されることがあります。
- 音声は伝送されません。
- 動画を再生する場合、コンピューター上で再生した場合と比べて、スムーズに再生されません。
- DirectXの一部の機能を使っているアプリケーションは、正しく表示できない場合があります。(Windowsのみ)
- MS-DOSプロンプトの全画面表示は投写できません。(Windowsのみ)
- コンピューター上の画面とプロジェクターが投写する画像は完全に一致しないことがあります。

## Windows Vista使用時

Windows Vista搭載のコンピューターでEMP NS Connectionをお使いのときは、以下の点にご留意ください。

## Windows フォト ギャラリー投写時の制限

EMP NS Connectionを起動中にWindows フォト ギャラリーを起動すると、以下2点の制限があります。

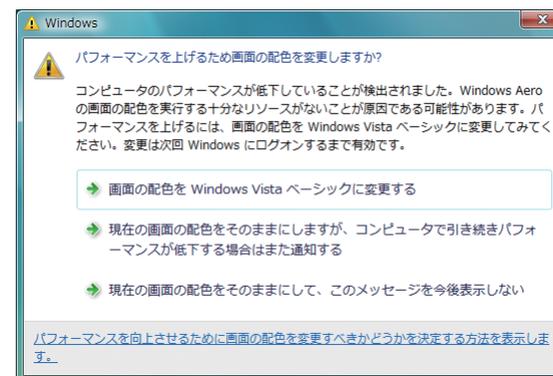
- Windows フォト ギャラリーで、スライドショーを行うとシンプルモードで再生されます。  
ツールバーが表示されませんので、Windowsエクスペリエンス インデックスのスコアに関わらず、再生中にテーマ(効果)の変更はできません。  
いったんシンプルモードになると、EMP NS Connectionを終了してもWindows フォト ギャラリーを継続している間はモード変更できません。Windows フォト ギャラリーを再起動してください。
- 動画再生ができません。

## Windows Aeroの制限

お使いのコンピュータのウィンドウデザインがWindows Aeroのときは、以下2点の制限があります。

- EMP NS Connectionのオプション設定のレイヤードウィンドウの転送に関わらずレイヤードウィンドウが投写されます。  
例えば、EMP NS Connection のツールバーはレイヤードウィンドウの転送を無効にしていると、コンピュータの画面に表示されていても投写されないのですが、ツールバーも投写されます。

- EMP NS Connectionでコンピュータとプロジェクターをネットワーク接続してから何分かすると以下のメッセージウインドウが表示されます。  
現在の画面の配色をそのままにして、このメッセージを今後表示しないを選択することをお勧めします。この選択はコンピュータを再起動するまで有効です。



まず、下記をご覧になりどのトラブルに該当するかを確認し、参照先で詳細な内容をご覧ください。

## ネットワーク機能に関するトラブル

「EMP NS Connectionと接続できない」☞ p.59

「EMP NS Connectionで接続して、映像が投写されたままになって他のコンピューターから接続できない」☞ p.59

「EMP NS Connectionを起動してもプロジェクターが見つからない」☞ p.59

「マニュアルモードまたは有線LANで接続できない」☞ p.60

「EMP NS Connectionで接続して映像が表示されない、表示が遅い」☞ p.62

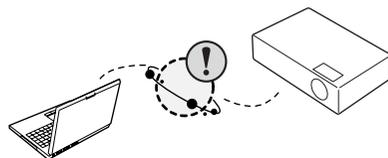
「EMP NS Connectionで接続して使用しているときにPowerPointのスライドショーが動作しない」☞ p.62

「EMP NS Connectionで接続してOfficeアプリケーション使用時に画面が更新されない」☞ p.62

「EMP NS Connection実行時のエラーメッセージ」☞ p.62

## 監視・制御に関するトラブル

「プロジェクターに異常が起きてもメールが送られてこない」☞ p.64



## ネットワーク機能に関するトラブル

### EMP NS Connectionと接続できない

画面のメッセージを確認して以下のとおり対処してください。

エラーメッセージ	対処法
お使いのアプリケーションバージョンはサポートされていません。最新のアプリケーションをコンピューターにインストールしてください。	EMP NS Connection のバージョンが古いため接続できません。本製品に同梱品の『EPSON Projector Software for Meeting & Monitoring』からインストールして接続してください。

### EMP NS Connectionで接続して、映像が投写されたままになって他のコンピューターから接続できない

確認	対処法
プレゼンテーションした人がネットワーク接続を切断せずに会議室から出てしまっていないですか？	EMP NS Connectionでは、コンピューターとプロジェクターが接続中に別のコンピューターから接続しようとする、先に接続していたコンピューターとの接続を切断し、後から接続の操作をしたコンピューターと接続できます。 したがって、プロジェクターキーワードがプロジェクターに設定されていないときや、プロジェクターキーワードを知っているときは、接続操作をすれば現在の接続が切断され、プロジェクターと接続できません。 プロジェクターキーワードがプロジェクターに設定されていて、プロジェクターキーワードがわからないときは、プロジェクター側を再起動してから再接続します。

### EMP NS Connectionを起動してもプロジェクターが見つからない

確認	対処法
無線LANユニットがセットされていますか？ <b>無線LANの場合</b>	プロジェクターにオプションの無線LANユニットが確実にセットされているか確認します。
プロジェクター側が環境設定メニューになっていませんか？	環境設定メニュー表示中はネットワーク接続が無効になります。環境設定メニューを終了して、LAN待機画面に戻してください。
コンピューター側のLANカードや内蔵のLAN機能が使用できる状態になっていますか？	コントロールパネル・システムのデバイスマネージャなどでLANが有効になっているか確認してください。

確認	対処法
SSIDがアクセスポイントのSSIDと同じではありませんか？ <b>かんたんモードの場合</b>	アクセスポイントのSSIDと異なるSSIDを設定してください。☛『取扱説明書』「ネットワークメニュー」
有線LANのDHCP機能がオンになっていませんか？ <b>かんたんモードの場合</b>	環境設定メニューで <b>有線LAN - DHCP</b> 設定をオフにしてください。☛『取扱説明書』「ネットワークメニュー」
EMP NS Connectionで、使用するネットワークアダプタを正しく選択しましたか？	お使いのコンピューターが複数のLAN環境を持っている場合は使用するネットワークアダプタを正しく選択していないと接続できません。Windows搭載のコンピューターをお使いのときは、EMP NS Connectionを起動し、オプション設定 - LAN切替で使用するネットワークアダプタを選択してください。☛ p.39
無線LAN接続の場合、コンピューターの省電力設定で無線LANが使用不可の設定になっていませんか？	無線LANを使用可能にしてください。
アクセスポイントおよびコンピューター、プロジェクターの間に障害物がありますか？ <b>無線LANの場合</b>	電波状況によってはプロジェクターが検索されずに見つからないことがあります。アクセスポイントおよびコンピューター、プロジェクターの間に障害物がないかを確認し、電波状況がよくなるようにそれらの位置を変更してください。
コンピューター側の無線LANの電波が微弱な設定になっていませんか？	電波強度は、できるだけ最大でお使いください。
お使いの無線LANは802.11g、802.11b、または802.11aに準拠していますか？	802.11g、802.11b、または802.11a以外の規格(802.11など)には対応していません。
ファイアウォールを解除または例外に登録していますか？	ファイアウォールを解除または例外に登録をしたくないときは、ポートを開ける設定をしてください。EMP NS Connectionで使用するポートは3620、3621、3629です。
ネットワークケーブルが正しく接続されていますか？ <b>有線LANの場合</b>	ネットワークケーブルが正しく接続されているか確認します。接続されていなかったり間違っ

### マニュアルモードまたは有線LANで接続できない

確認	対処法
SSIDの設定が異なっていませんか？	コンピューターやアクセスポイントとプロジェクターを同じSSIDに設定してください。☛『取扱説明書』「ネットワークメニュー」
同一のWEPキーを設定していますか？	セキュリティーでWEPを選択した場合は、アクセスポイントやコンピューターとプロジェクターを同じWEPキーに設定してください。☛『取扱説明書』「ネットワークメニュー」

確認	対処法
アクセスポイント側で <b>MACアドレス</b> ▶▶制限、ポート制限などの接続拒否機能を正しく設定していますか？	アクセスポイント側でプロジェクターを接続許可に設定してください。
アクセスポイントとプロジェクターのIPアドレス、サブネットマスク、ゲートウェイアドレスが正しく設定されていますか？	DHCPを使用しない場合は各設定を合わせてください。☛『取扱説明書』「ネットワークメニュー」
アクセスポイントとプロジェクターのサブネットが異なっていませんか？	EMP NS Connectionの <b>指定接続</b> を選択し、IPアドレスを指定して接続してください。 ☛ p.33

### マルチスクリーンディスプレイ機能実行時に、任意のディスプレイへスライドショーの表示ができない

確認	対処法
PowerPoint2002以前のバージョンをお使いですか？ <b>Windowsの場合</b>	<u>仮想ディスプレイ</u> ▶▶を2つ以上設定してお使いになるときは、PowerPoint2003以降をお使いいただくか、仮想ディスプレイを1つにしてスライドショー表示をしてください。

### マルチスクリーンディスプレイ機能実行時に、コンピューターの画面上からアプリケーションが表示されなくなってしまう

確認	対処法
他のアプリケーションが <u>仮想ディスプレイ</u> ▶▶上で動作していませんか？ <b>Windowsの場合</b>	EPSON Virtual Displayをインストールした場合、他のアプリケーションが仮想ディスプレイ上で動作することがあります。その場合は画面プロパティからEPSON Virtual Displayを無効にしてください。

### マウスカーソルがコンピューターの画面上に表示されない

確認	対処法
EPSON Virtual Displayをインストールしていますか？ <b>Windowsの場合</b>	<u>仮想ディスプレイ</u> ▶▶上にマウスカーソルが移動しました。 <b>EPSON Virtual Display</b> の追加と削除画面で仮想ディスプレイのチェックを外すと、マウスポインターが画面の表示領域内に戻ります。

### EMP NS Connectionで接続して映像が表示されない、表示が遅い

確認	対処法
Media Playerで動画を再生したり、スクリーンセーバのプレビューを実行しようとしませんでしたか？	コンピューターによっては、Media Playerによる動画再生画面が表示されなかったり、スクリーンセーバのプレビューが正常に表示されないことがあります。
WEP暗号化を有効にしたり、複数台のプロジェクターに接続していませんか？	WEP暗号化有効の場合や、複数台接続を行ったときは、表示速度が低下します。
DHCPを有効にしていませんか？	マニュアルモードまたは有線LAN接続でDHCPをオンに設定しているときに、接続可能なDHCPサーバーが見つからないと、LANの待機状態になるのに時間がかかります。
無線LANが802.11 g/bでかんたんモードでお使いではありませんか？	電波の環境によっては動画の映像や音が止まる場合があります。動画転送機能をお使いになるときは、マニュアルモードまたは、無線LANを802.11 aのかんたんモードでお使いください。

### EMP NS Connectionで接続して使用しているときにPowerPointのスライドショーが動作しない

確認	対処法
PowerPointを起動中に、EMP NS Connectionを起動しましたか？ <b>Windowsの場合</b>	EMP NS Connectionで接続する際は、事前にPowerPointを終了してください。起動したまま接続するとスライドショーが動作しなくなることがあります。

### EMP NS Connectionで接続してOfficeアプリケーション使用時に画面が更新されない

確認	対処法
マウスを絶えず動かし続けていませんか？	マウスカーソルの移動を止めると画面が更新されます。画面がなかなか更新されない場合は、マウスカーソルの動きを止めてください。

### EMP NS Connection実行時のエラーメッセージ

エラーメッセージ	対処法
プロジェクターとの接続に失敗しました。	再度、接続の操作をします。それでも接続できない場合は、コンピューター側のネットワーク設定とプロジェクター側のネットワーク設定を確認してください。 プロジェクター側のネットワーク設定について  『取扱説明書』「ネットワークメニュー」

エラーメッセージ	対処法
キーワードが一致しません。プロジェクターに表示された、正しいキーワードを入力してください。	LAN待機画面に表示されているプロジェクターキーワードを確認し、そのプロジェクターキーワードを入力してください。
選択されたプロジェクターは使用中です。接続処理を続行しますか？	別のコンピューターが接続しているプロジェクターに接続しようとした。 はいボタンをクリックすると、プロジェクターと接続します。このとき、接続していた別のコンピューターとプロジェクターの接続は切断されます。 いいえボタンをクリックすると、プロジェクターと接続しません。 別のコンピューターとプロジェクターの接続は保持されます。
EMP NS Connectionの初期化に失敗しました。	EMP NS Connectionを再起動してください。それでもメッセージが出るときは、EMP NS Connectionをいったんアンインストールして、その後もう一度EMP NS Connectionをインストールしてください。 ☛ p.8
キーワードが間違っていたため接続できません。	プロジェクターキーワードが設定されているプロジェクターへの接続時に、間違ったプロジェクターキーワードを入力しました。 プロジェクターキーワードは、プロジェクターの接続待機画面に表示されていますので確認してください。いったん接続を切断してから、再接続して接続時に表示されるキーワード入力画面で、そのプロジェクターキーワードを入力します。 ☛ p.14
ネットワークアダプタの情報取得に失敗しました。	次の点を確認します。 コンピューターにネットワークアダプタが装着されていますか。 コンピューターに、使用するネットワークアダプタのドライバがインストールされていますか。 確認後、コンピューターを再起動して、もう一度接続の操作を行います。 それでも接続できない場合は、次を確認してください。 コンピューター側のネットワーク設定とプロジェクター側のネットワーク設定を確認してください。 プロジェクター側のネットワーク設定について ☛ 『取扱説明書』『ネットワークメニュー』
SXGAを超える解像度をサポートしていないプロジェクターがあります。コンピューターの解像度を下げて再接続してください。	接続先のプロジェクターの中にELP-735があります。コンピューターの画面の解像度を、SXGA(1280x1024)以下に変更してください。
応答しないプロジェクターが存在します。	複数のプロジェクターに同時に接続しようとしたが接続できませんでした。コンピューター側のネットワーク設定とプロジェクター側のネットワーク設定を確認してください。 プロジェクター側のネットワーク設定について ☛ 『取扱説明書』『ネットワークメニュー』
プロジェクターに表示されたキーワードを入力してください。	LAN待機画面に表示されているプロジェクターキーワードを確認し、そのプロジェクターキーワードを入力してください。

エラーメッセージ	対処法
USBディスプレイが起動しているため本アプリケーションは起動できません。	USBディスプレイを終了してからEMP NS Connectionを起動してください。
クイックワイヤレスが起動しているため、本アプリケーションは起動できません。	クイックワイヤレスを終了してからEMP NS Connectionを起動してください。
ご使用のEMP NS Connectionのバージョンではプロジェクターに接続できません。最新のEMP NS Connectionをインストールしてください。	最新のEMP NS Connectionをインストールしてください。

### EMP NS Connectionでコンピューターとの接続を切断した後、ネットワークの設定が回復しない

確認	対処法
コンピューター起動時に手動で無線LANに接続していますか？ <b>かんたんモードの場合</b>	手動で無線LANに接続してください。

## 監視・制御に関するトラブル

### プロジェクターに異常が起きてもメールが送られてこない

確認	対処法
無線LANユニットがセットされていますか？ <b>無線LANの場合</b>	プロジェクターにオプションの無線LANユニットが確実にセットされているか確認します。
ネットワークに接続するための設定は正しいですか？	プロジェクターのネットワークの設定を確認してください。☛『取扱説明書』「ネットワークメニュー」
待機モードをネットワーク有効に設定していますか？	本機がスタンバイ状態のときもメール通知機能を使うためには、環境設定メニューの待機モードをネットワーク有効に設定します。☛『取扱説明書』「拡張設定メニュー」
致命的な異常が発生し、プロジェクターが瞬時に起動停止状態になっていませんか？	瞬時に起動停止した場合はメール送信できません。 プロジェクターを確認しても異常状態が復帰しない場合は、お買い上げの販売店またはエプソンサービスコールセンターに修理を依頼してください。☛『お問い合わせ先』
プロジェクターに電源が供給されていますか？	プロジェクターが設置されている地域が停電になっていたり、プロジェクターの電源を取っているコンセントのブレーカーが切れていないか確認してください。

確認	対処法
ネットワークケーブルが正しく接続されていますか？ <b>有線LANの場合</b>	ネットワークケーブルが正しく接続されているか確認します。接続されていなかったり間違っ て接続されている場合は、接続し直します。

本書で使用している用語で本文中に説明がなかったもの、あるいは難しいものを簡単に説明します。詳細は市販の書籍などでご確認ください。

<b>DPOF</b>	Digital Print Order Formatの略で、デジタルカメラで撮影した写真をプリントするための情報(プリントしたい写真とその枚数の指定など)を、メモリーカードなどの記録媒体に記録するフォーマットです。
<b>MACアドレス</b>	Media Access Controlアドレスの略です。MACアドレスはネットワークアダプタごとの固有のID番号です。すべてのネットワークアダプタは1つずつ固有の番号が割り当てられており、これをもとにネットワークアダプタ間の送受信が行われます。
<b>SVGA</b>	IBM PC/AT互換機(DOS/V機)の信号で横800ドット×縦600ドットのものと呼ばれます。
<b>SXGA</b>	IBM PC/AT互換機(DOS/V機)の信号で横1,280ドット×縦1,024ドットのものと呼ばれます。
<b>UXGA</b>	IBM PC/AT互換機(DOS/V機)の信号で横1,600ドット×縦1,200ドットのものと呼ばれます。
<b>VGA</b>	IBM PC/AT互換機(DOS/V機)の信号で横640ドット×縦480ドットのものと呼ばれます。
<b>XGA</b>	IBM PC/AT互換機(DOS/V機)の信号で横1,024ドット×縦768ドットのものと呼ばれます。
<b>アドホック</b>	無線LANの通信方式の一つで、アクセスポイントを経由せずに機器同士が直接通信を行なう方式です。同時に2台以上の機器と通信することはできません。
<b>仮想ディスプレイ</b>	1台のコンピューターから複数台のディスプレイに画面出力を行います。複数台のディスプレイを使って仮想的な大画面を実現します。

## ご注意

- (1) 本書の内容の一部、または全部を無断で転載することは固くお断りいたします。
- (2) 本書の内容については、将来予告なしに変更することがあります。
- (3) 本書の内容については万全を期して作成いたしました。万が一不審な点や誤り、お気付きの点がございましたら、ご連絡くださいますようお願いいたします。
- (4) 運用した結果の影響につきましては、(3)項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。
- (5) 本製品がお客様により不適当に使用されたり、本書の内容に従わずに取り扱われたり、またはエプソンおよびエプソン指定の者(裏表紙参照)以外の第三者により、修理、変更されたこと等に起因して生じた損害等につきましては、責任を負いかねますのでご了承ください。
- (6) エプソン純正品、およびエプソン品質認定品以外のオプション品または消耗品、交換部品を装着してトラブルが発生した場合には、責任を負いかねますのでご了承ください。
- (7) 本書中のイラストや画面図は実際と異なる場合があります。

## 使用限定について

本製品を航空機・列車・船舶・自動車などの運行に直接関わる装置・防災防犯装置・各種安全装置など機能・精度などにおいて高い信頼性・安全性が必要とされる用途に使用される場合は、これらのシステム全体の信頼性および安全維持のためにフェールセーフ設計や冗長設計の措置を講じるなど、システム全体の安全設計にご配慮いただいた上で当社製品をご使用いただくようお願いいたします。本製品は、航空宇宙機器、幹線通信機器、原子力制御機器、医療機器など、極めて高い信頼性・安全性が必要とされる用途への使用を意図しておりませんので、これらの用途には本製品の適合性をお客様において十分ご確認のうえ、ご判断ください。

## 本機を日本国外へ持ち出す場合の注意

電源ケーブルは販売国の電源仕様に基づき同梱されています。本機を販売国以外でお使いになるときは、事前に使用する国の電源電圧や、コンセントの形状を確認し、その国の規格に適合した電源ケーブルを現地にてお求めください。

## 瞬低(瞬時電圧低下)基準について

本装置は、落雷などによる電源の瞬時電圧低下に対し不都合が生じることがあります。電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置などを使用されることをお薦めします。

## JIS C 61000-3-2適合品

本装置は、高調波電流規格「JIS C 61000-3-2」に適合しています。

## 商標について

Windows Vista および Windows ロゴは米国 Microsoft Corporation 及びその関連会社の商標です。

IBM、DOS/V、XGA は、International Business Machines Corp. の商標または登録商標です。

Macintosh、Mac、iMac は、Apple Inc. の商標です。

Windows、Windows NT、Windows Vista、PowerPoint は米国マイクロソフトコーポレーションの米国及びその他の国における商標または登録商標です。

WPA™、WPA2™ は Wi-Fi Alliance の登録商標です。

Pixelworks、DNX は Pixelworks 社の商標です。

なお、各社の商標および製品商標に対しては特に注記のない場合でも、これを十分尊重いたします。

## ソフトウェアの著作権について

本装置は当社が権利を有するソフトウェアの他にフリーソフトウェアを利用しています。

©SEIKO EPSON CORPORATION 2008. All rights reserved.

## 数字・アルファベット

jpg.....	48
SNMP.....	46
Web制御.....	43
Webブラウザ.....	43

## カ

画像ファイル.....	52
画像ファイルの投写.....	52
画像を回転.....	50
繰り返し.....	54

## サ

スライドショー.....	49, 53
--------------	--------

## タ

トラブル.....	58
トラブルシュート.....	16

## ハ

表示時間設定.....	54
表示順序設定.....	54
表示条件.....	54
プレゼンテーション.....	47
プロジェクターの設定.....	43
プロファイル.....	17

## マ

メール通知機能.....	45
--------------	----